電動丸 1000 YARIIKA SP

取 扱 説 明 書

このたびは、シマノ電動丸 1000 YARIIKA SP をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存してくださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

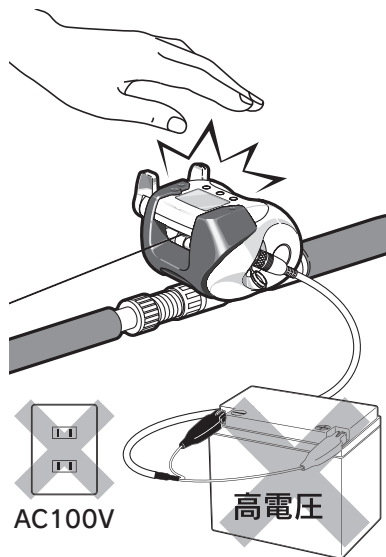
ご使用前に必ずお読みください。

警　告

高温注意

●バッテリ、船電源の所定電圧（ＤＣ１２～１４.８ボルト）以外を使用しないでください。
所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。

●家庭用交流電源につながないでください。
回路が破損し発火発煙の恐れがあります。

●電源コネクタやワニロクリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。

警　告

警告

●電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。
そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を一つ上げてご使用ください。

警告

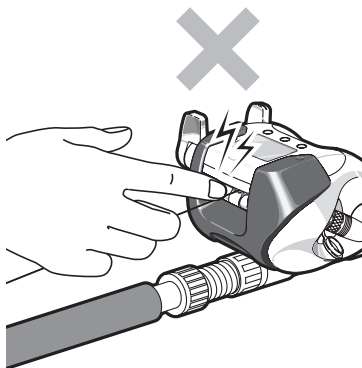
●バッテリーマーク（B または [▮]）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用下さい。

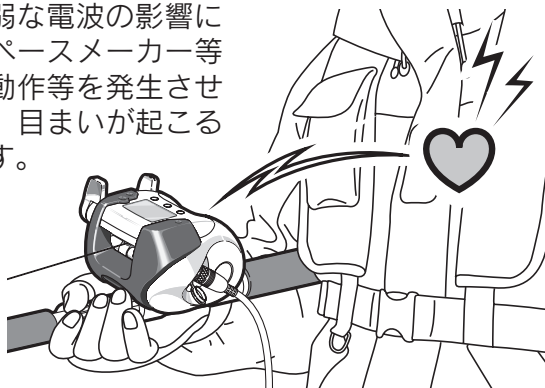
警告

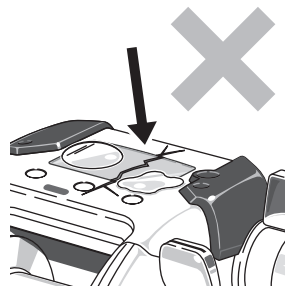
●船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（B または [▮]）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告

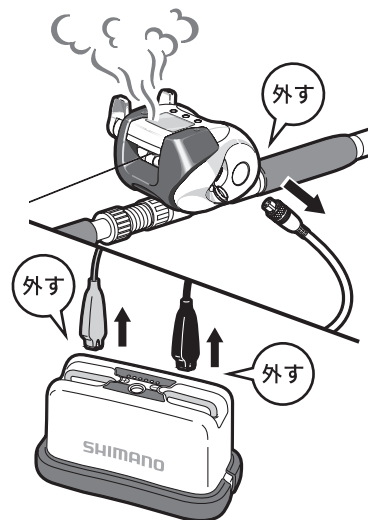
指をはさまれないよう注意

- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。

- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させご使用者に動機、目まいが起こる場合がございます。

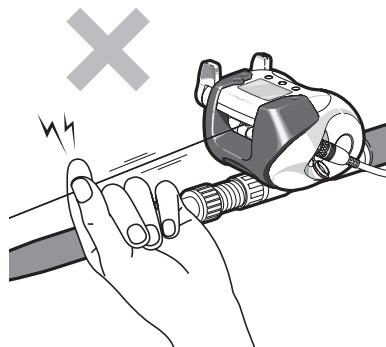
警告

警告

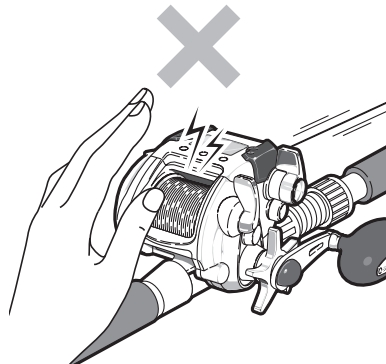
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐに電源コードを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。

警告

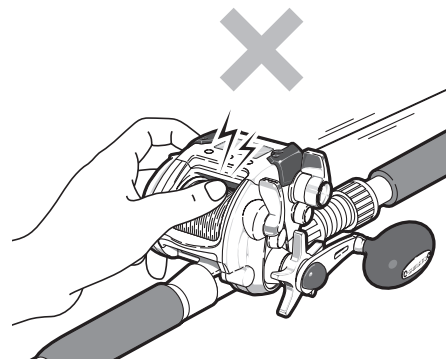
- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクタを外すか、バッテリからワニロクリップを外してください。

⚠ 注 意

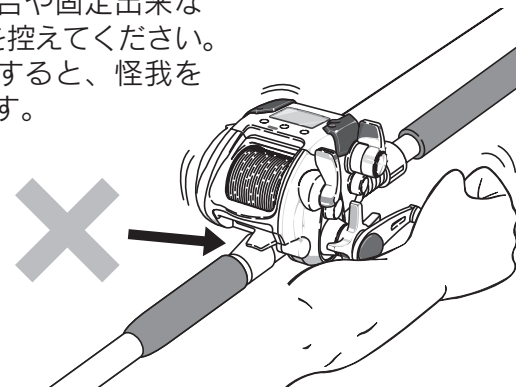
指をはさまれないよう注意

●糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。

回転物注意

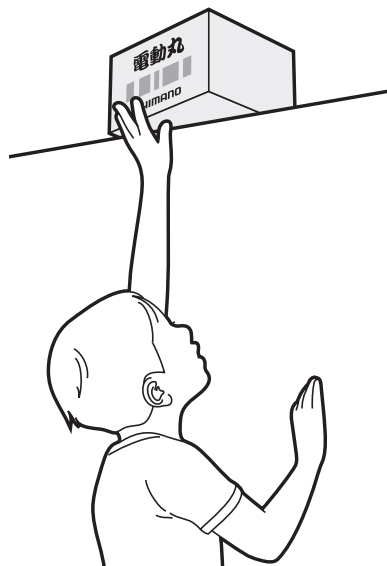
●回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。

⚠ 注 意

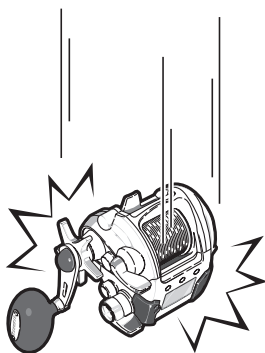
回転物注意

●指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。
指を怪我したり、切断する恐れがあります。

注意

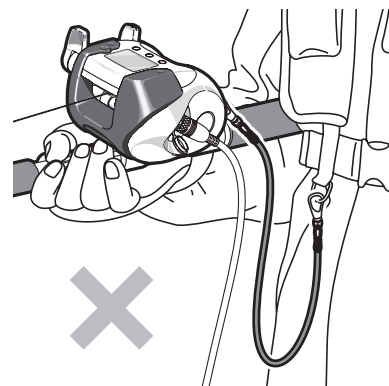
●電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。
ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。
釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。

注 意

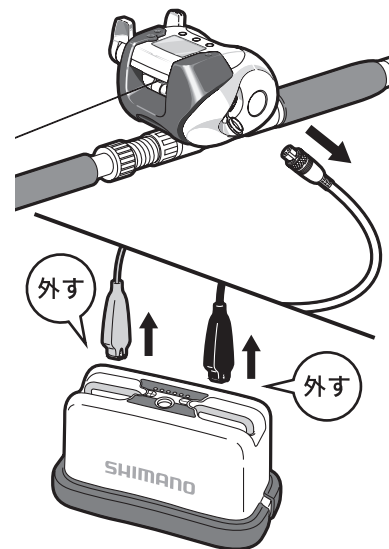
注意

●幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。

注意

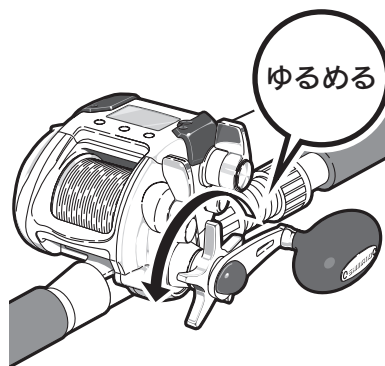
●落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。
強い衝撃が加わらないようにしてください。

注 意

注意

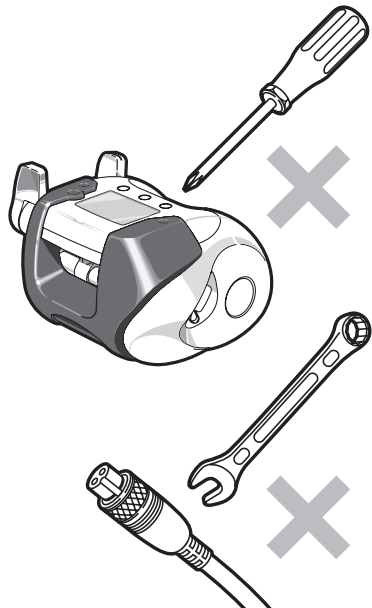
●電源ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。
魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。

注意

●釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ず電源コードをバッテリから外して行ってください。
急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。

注 意

注意

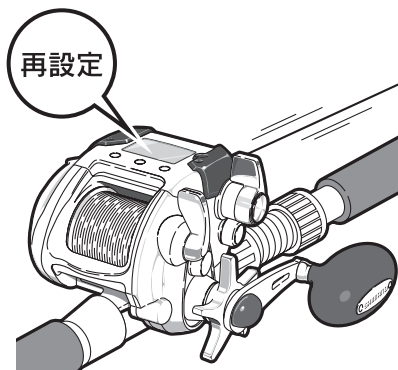
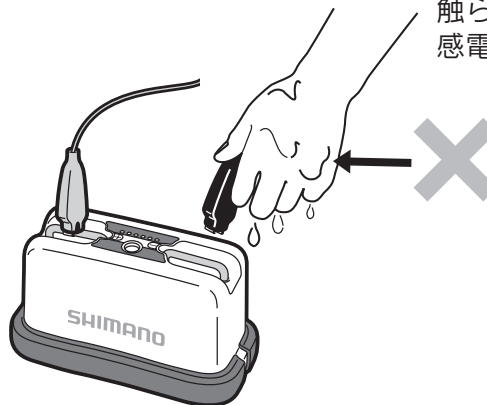
●電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。
故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。

分解禁止

●本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。

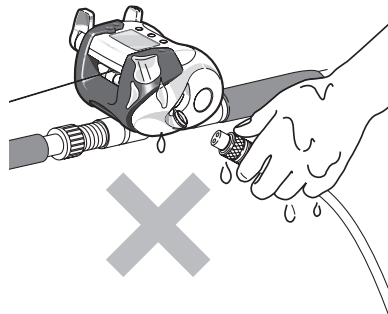
●電源コードの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。

注 意

注意

●船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズレる事があります。
停止位置がズレてきた場合は「0セット」して補正してください。
停止位置がズレると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。

注意

●濡れた手で電源コードのワニロクリップの金属部やバッテリ、船電源の端子を触らいないでください。
感電する恐れがあります。

⚠ 注 意

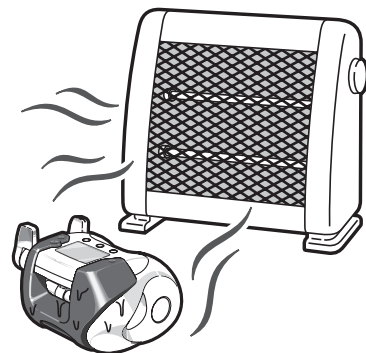
注意

●電源コードを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。
濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。

注意

●根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注 意

注意

●メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。
樹脂が変形したりする恐れがあります。

モーターの誤作動についてのご注意

●電動丸表示部は１０ｍの耐水圧性能により防水が確保されています。
しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、電源コードを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。

●本電動丸の使用電源保証範囲はＤＣ１２～１４.８Ｖまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。

特長

錆、塩噛みに強いボールベアリング…

シールドタイプ S A-RB 内蔵。

従来の A-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させた S A-RB を適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現！A-RB 処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による " 塩噛み " をも減少させています。

P32 参照

2 種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。

P39 ～ 40 参照

ラインテンション一定の「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパー II

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。

このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現。

さらに磨きのかかった…

ハイスピード＆ハイパワーを装備。

より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0（ゼロ）セット。

P29 ～ 30 参照

シカケが水面にあるときを 0 メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。

竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止。

P32 ～ 33 参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。

高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正。

P31 参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて 0 セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。

プログラマ不要の新 SLS 方式…

SLSII（シマノ・ラインプログラム・システム 2）搭載。

より正確な棚取りが可能です。

P15 ～ 25 参照

レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…

テクニカルレバー。

P13･39 ～ 40 参照

水深をアラームで知らせる…

棚アラーム。

☞ P34 ～ 35 参照

棚または底の水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴ります。

カウンター表示を選択できる…

「上からモード」「底からモード」切り替え。

☞ P36 ～ 38 参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて上（水面）から・底からの水深表示を切り替えることができます。

より速くシカケを落とす…

糸送り機能。

P28 参照

名人のイカのさそいをリールが再現…

さそい「3段シャクリ」再現。

電動リールにあらかじめ入力されている「3段シャクリ」が再現できます。

☞ P41 ～ 42 参照

※「さそい機能」が ON の場合、0 セット変更ができない場合があります。0 セット / 決定ボタンを押す場合は「さそい」を OFF にしてから行ってください。

探見丸システムを組み合わせれば、
さらに便利に！

船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P10･43 ～ 44 参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

釣技の再現がさらに便利に、詳細に設定可能…

テクニックマスター。

☞ P43 参照

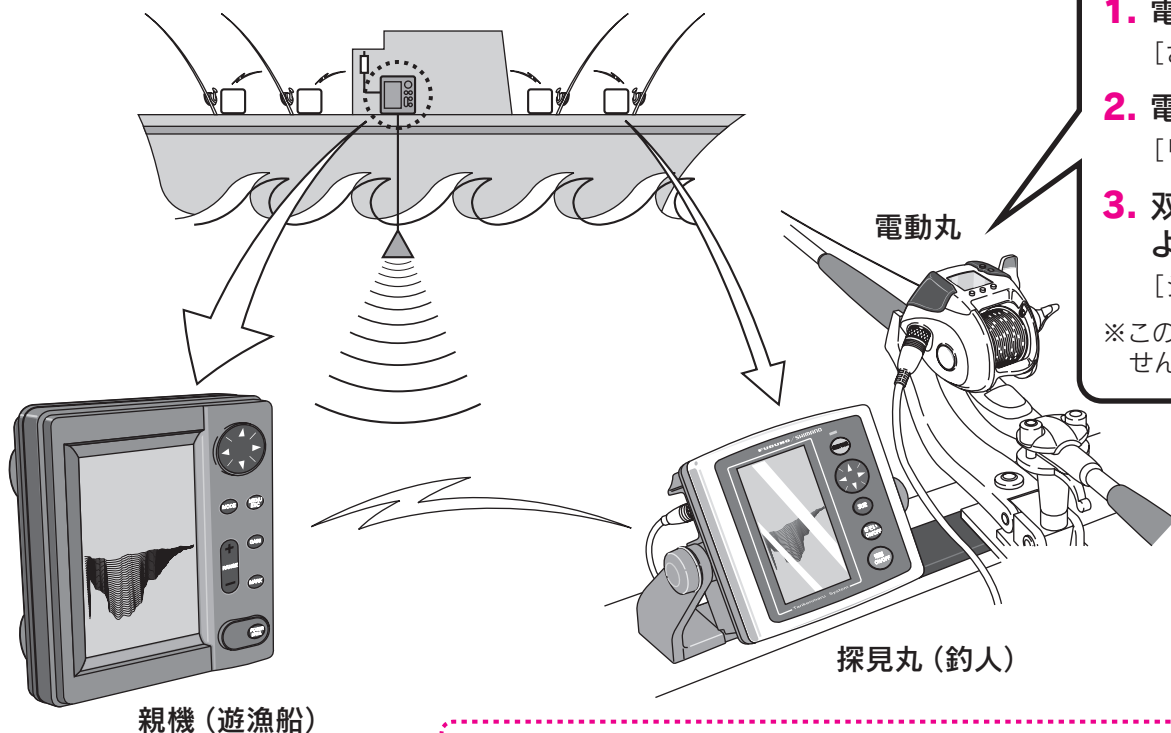
釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター（TM）が、探見丸で便利に操作できます。
あらかじめインプットされた代表的なさそいパターンの使用や、さそい幅の指定などが可能です。
また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

※「さそい機能」が ON の場合、0 セット変更ができない場合があります。0 セット / 決定ボタンを押す場合は「さそい」を OFF にしてから行ってください。

探見丸システムについて（探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 43 ～ 44 ページへ！）

探見丸システム　親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができる画期的なシステムです。〔探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧下さい。〕

※ご注意　探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。

さらに探見丸システム対応電動丸と組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動丸の操作が探見丸で可能に
［さそい、棚停止、オートシャクリetc.］

2. 電動丸からのデータを探見丸で表示
［リール水深、棚タイマーetc.］

3. 双方のデータを組み合わせてより便利な情報を表示
［シカケ軌跡、さそい幅etc.］

※この電動丸では棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動丸の機種によって使える機能は異なります。

この電動丸は探見丸システム対応機種です。
探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 43 ～ 44 ページをご覧下さい。

デジタルカウンターの各部の名称

◎現在の水深
水面からの水深を表示します。
（底からモード時は底からの水深を表示します。）
※水深は10cm単位です。（100m以上は
下図のように1m単位になります。）

999→100

◎底からモード
底からモード時は左側に▶が
点灯します。▶の点灯がない時は
上からモードです。

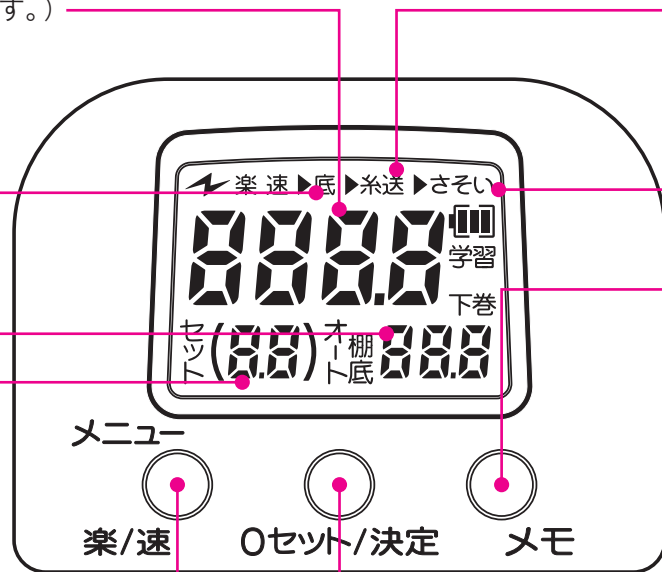
◎メモリーした水深

◎テクニカルレバーの設定値
楽楽モード、速度一定モードの設定値を
表示しています。

◎各種表示
学習・下巻：各学習モード時に点灯します。
底：底からモード時に点灯します。
棚：上からモード時に点灯します。
オート：オート棚アラームが有効な時に
点灯します。
セット：糸巻学習、0セット等の
受け付け時に2秒間点灯します。
⚡：探見丸と接続時に点灯します。
🔋：バッテリーまたは電源の電圧を
下図のようにお知らせします。

🔋：充分な電圧（点灯）
🔋：やや不足した電圧（点灯）
🔋：不足した電圧（点滅）

●図は説明のためにに液晶を全部点灯させています。

楽 速 ▶底 ▶糸送 ▶さそい
8888.8 学習 下巻
セット (8.8) オート 棚 底 888.8
メニュー
楽/速　0セット/決定　メモ

◎自動糸送り機能
シカケをおろす時、船べり停止位置
プラス5mで自動的にモーターがONに
なり、スプールの抵抗を極力少なく
します。機能がオフの時は左側の▶が
消灯します。（例：船べり停止位置が
1mの場合は6mでONになります。）

◎さそいモード
さそいモード時は左側に▶が点灯します。

■メモボタン

ワンタッチ

現在の水面からの水深を
メモリーします。
底からモードの時には
同時に「**◎現在の水深**」が
0.0になり、底からの
カウントに変わります。

■メニュー・楽/速ボタン

3秒以上

3秒以上押すとメニューモードに入り、続けて
押すと（3秒未満押し）底・糸送の表示が順に
点滅になり、さらに押すと標準画面に戻ります。
決定ボタンと合わせて使用します。

ワンタッチ

押すごとに速度一定モードと楽楽モードの切り
替えができます。巻き上げ中の操作も可能です。
現在のモードがデジタルカウンターに
表示されます。
「楽」点灯：楽楽モード（バックライト：緑）
「速」点灯：速度一定モード（バックライト：オレンジ）

■0セット/決定ボタン

ワンタッチ

メニューボタンで点滅
表示にした項目のオン/オフ
に使用します。

3秒以上

0セットします。
シカケを水面に合わせて
0セットしてください。
※探見丸・電動丸の「さそい機能」がONの場合、0セットできない場合があります。必ず「さそい」をOFFにしてから行ってください。

メニューボタンの操作

底からモード、自動糸送り機能、さそいモードをオン / オフしたい場合に操作します。３秒以上押すとメニューモードに入り、続けて押すと（３秒未満押し）底・糸送・さそいの表示が順に点滅になり、さらに押すと標準画面に戻ります。変更したい機能が点滅の時に決定ボタンを押せば、オン/オフが切り替わった後、標準画面に戻ります。

各部の名称

ON
OFF

OFF　MAX

テクニカルレバー
巻き上げ速度と楽楽モードのテンション設定を瞬時に調整できます。船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためレバーを動かしての巻き上げはできないようになっております。

テクニカルレバー

スプールコントロールツマミ
スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

クラッチ
ハンドル正転または手で戻すとＯＮになります。
ＯＮ　：シカケの巻き上げ
ＯＦＦ：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

PEライン4号-200m用の下巻目安ライン

スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。

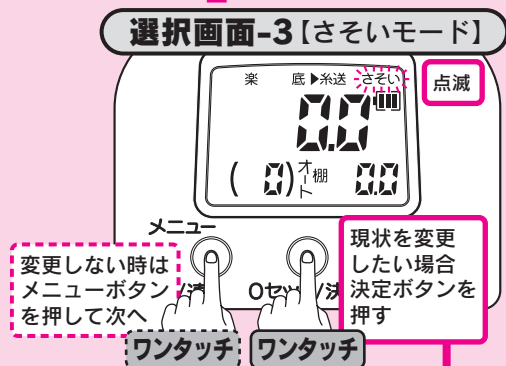
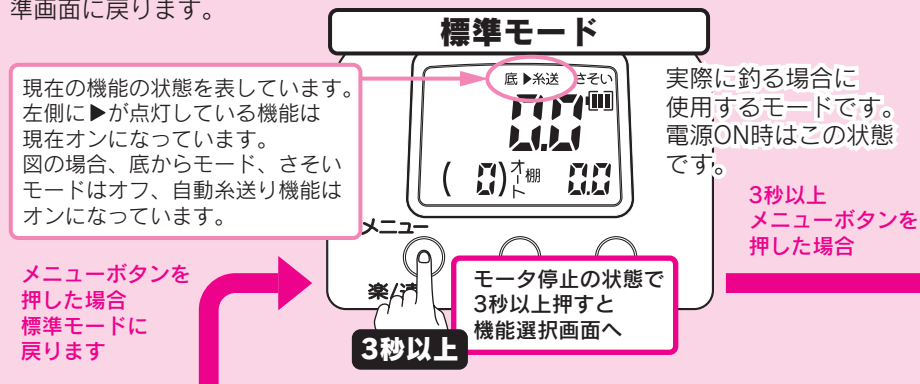
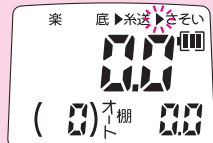
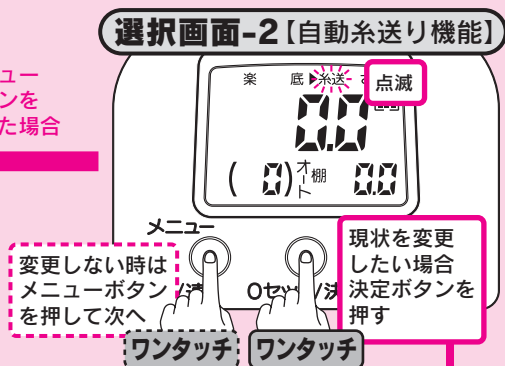
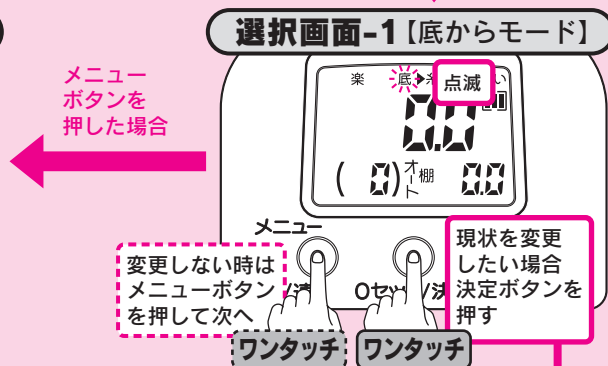
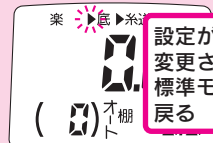
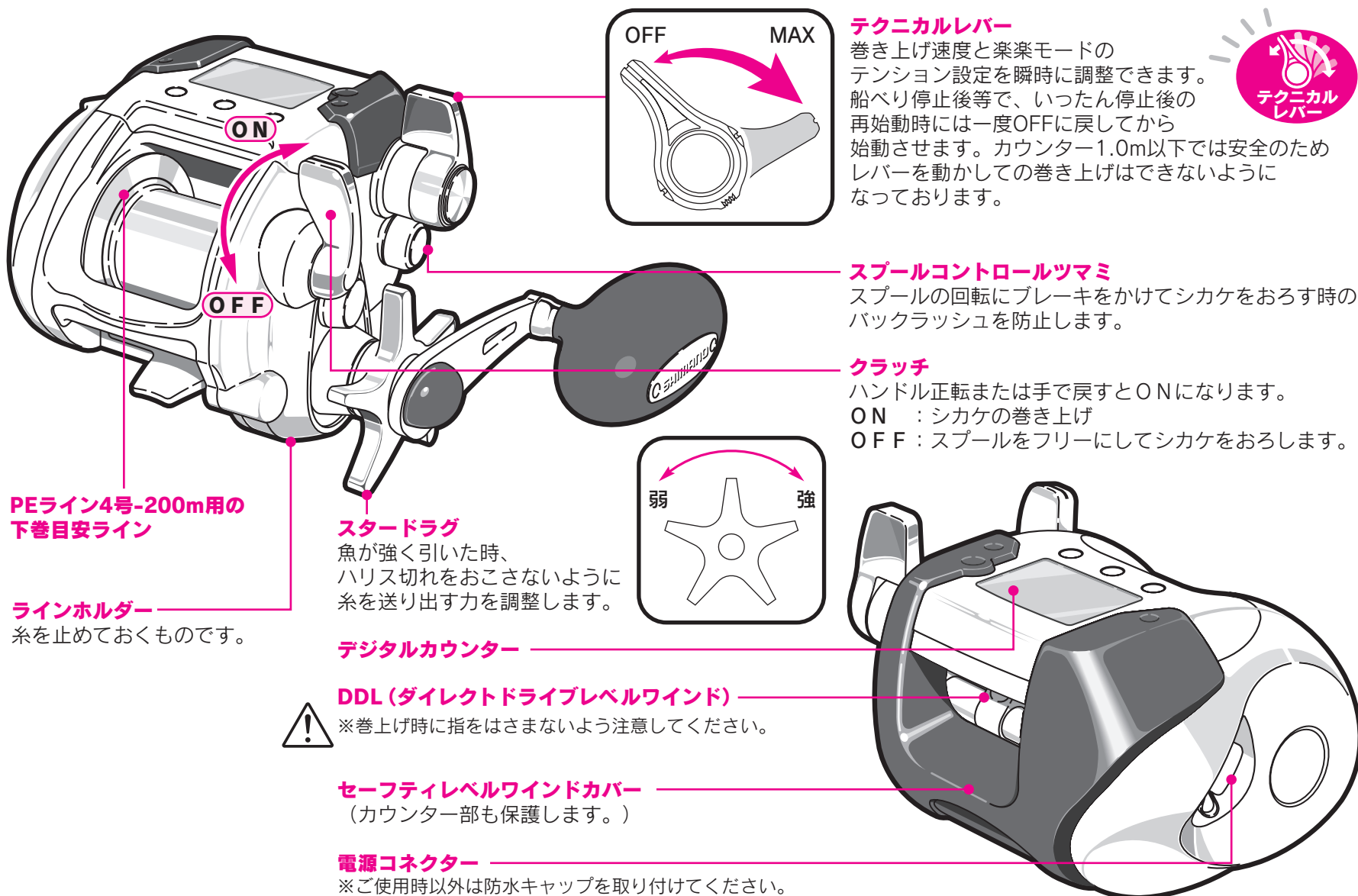
弱　強

ラインホルダー
糸を止めておくものです。

デジタルカウンター

DDL（ダイレクトドライブレベルワインド）
※巻上げ時に指をはさまないよう注意してください。

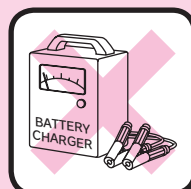
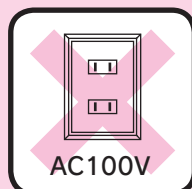
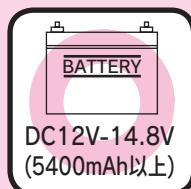
セーフティレベルワインドカバー
（カウンター部も保護します。）

電源コネクター
※ご使用時以外は防水キャップを取り付けてください。

電源とコードについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流（DC）12V です。公称電圧が 12V から 14.8V（リチウムイオンバッテリーなど）までのものをご使用下さい。指定外の電源（たとえば家庭用の交流 100V、船装備の高電圧など）ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。

DC12V-14.8V
(5400mAh以上)

- ●船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流（DC）12V から 14.8V であることをご確認ください。（船のバッテリーをご使用になる場合は、12V のバッテリーか、DC-DC コンバータにより 24V から 12V に変換されたものに限ります。）また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- ●十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- ●バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- ● AC 電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。
- ●他社メーカーのバッテリーには、ワニ口が正確に取り付けできない場合がございます。

コードについて

電源との接続は、必ずシマノ純正電源コードを用いてください。
探見丸接続時は専用ケーブルをご使用ください。
電源コードは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2 ～ 3 年で交換することをお勧めします。

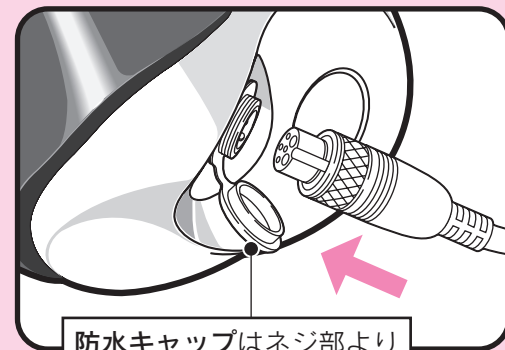
ご注意：純正以外のコードを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、電源コードは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属の電源コードを接続してください。

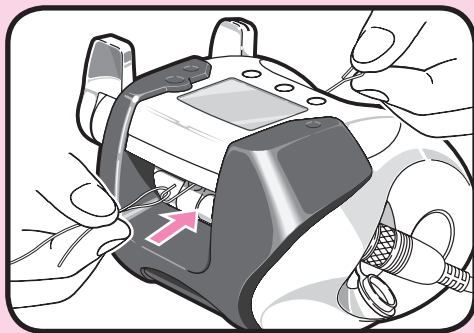
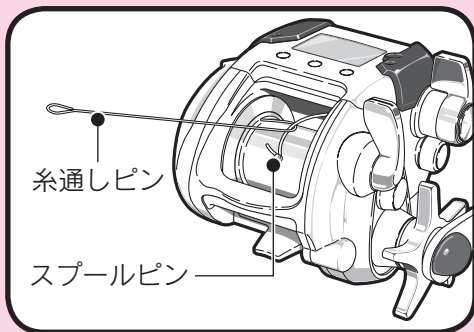
赤クリップを（＋）側に、黒クリップを（－）側につないでください。

2 それから、リールと電源コードを接続します。

電源コードのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。

防水キャップはネジ部より外さないでください。

学習方法（使用するラインの実測値をリールに記憶させます。）

糸をセットします。

1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。

2 スプールピンに糸を結んでください。

学習方法の選択

まず下記の操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。
それぞれの学習方法については次ページからの説明をご覧ください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
※カウント値が６ｍ以下で操作してください。6.1m 以上の時はいったん０セットしてください。

標準モード
実際に釣る場合使用します。
電源ON時はこの状態です。

決定･メモボタンを両方同時に3秒以上押しで学習モードへ

3秒以上

メニューボタンを押した場合、標準モードに戻ります

ご注意：不足した電圧で学習されると途中で液晶が消える場合があります。この場合、学習は始めからやり直してください。

学習モード【下巻学習】
下巻をして巻く場合使用します。

点滅

[下巻学習]を選択しない時はメニューボタンを押して次へ

決定ボタンを押すと点灯に変わり[下巻学習]開始

ワンタッチ

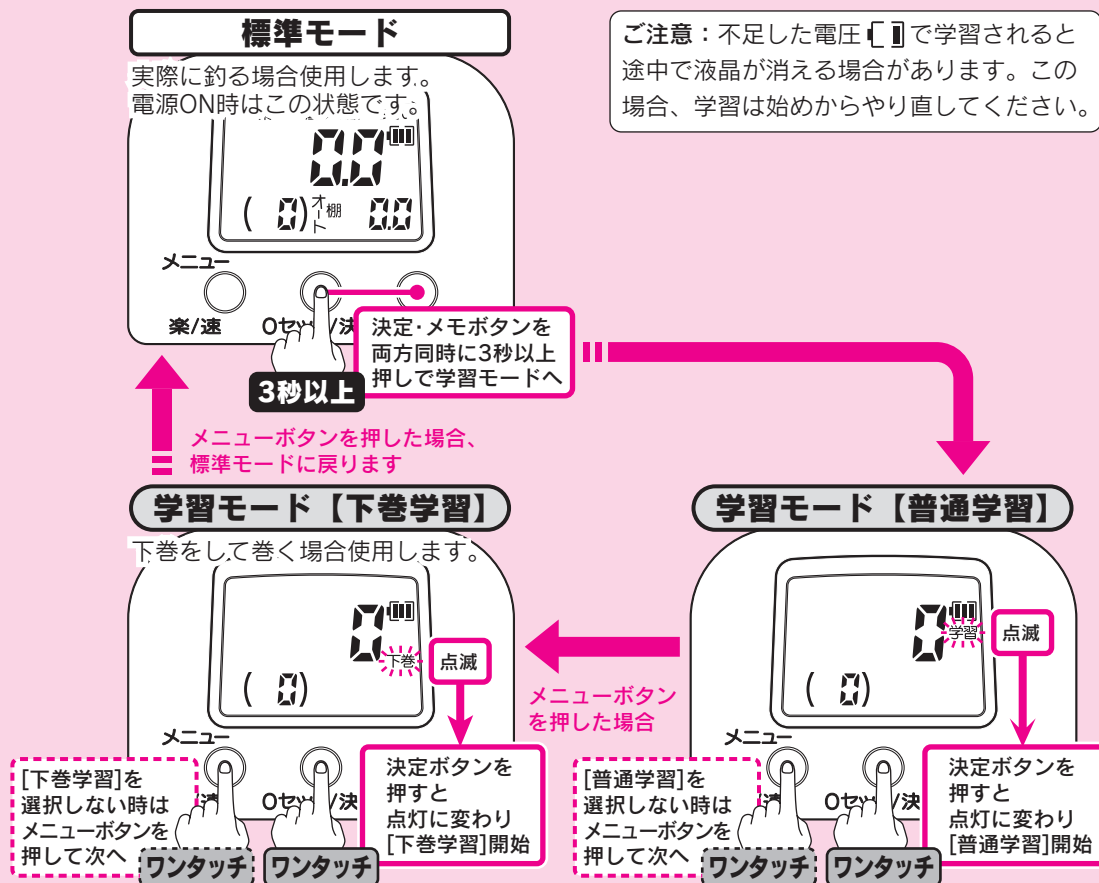
メニューボタンを押した場合

学習モード【普通学習】

点滅

[普通学習]を選択しない時はメニューボタンを押して次へ

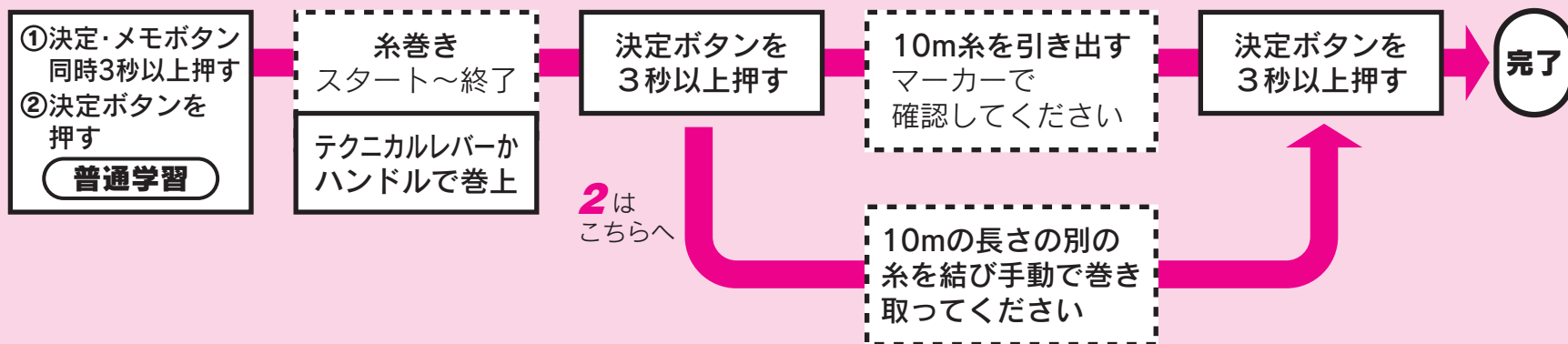
決定ボタンを押すと点灯に変わり[普通学習]開始

ワンタッチ

糸を巻く前にどのようにするのか、学習の全体の流れをつかんでください。

大きくは下図の 1 ～ 4 までの４通りの学習方法があります。よりくわしい説明はそれぞれのページを参照してください。

※電源をつないでいないとこの操作は行えません。

下巻なしでフルに巻くなら…

1 PEライン（メーターごとのマーカーのある糸）を巻かれる場合（18～19ページ参照）

2 ナイロンラインなどマーカーのない糸を巻かれる場合（20～21ページ参照）

下巻をして巻くなら…

3 **PEライン4号200mを巻かれる場合：スプールの下巻目安ラインを使用**

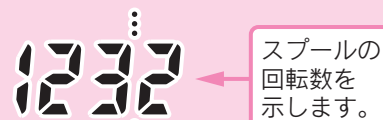
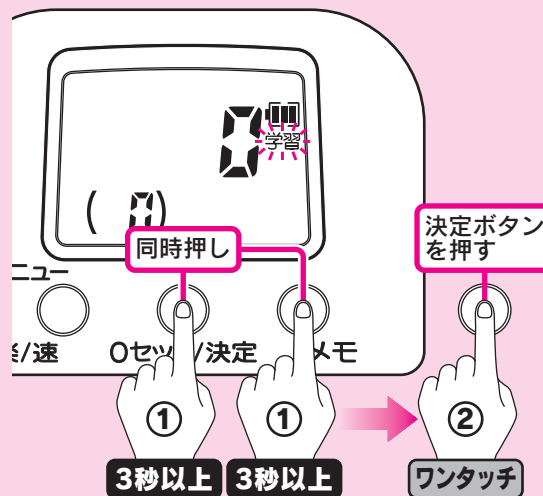
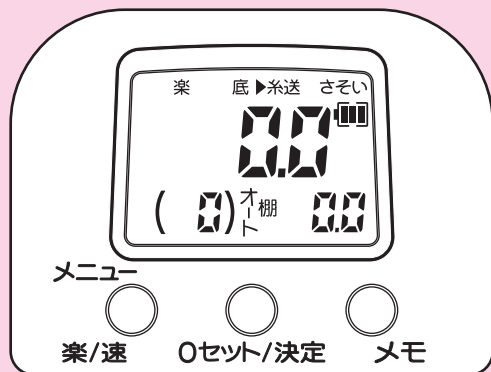
4 **それ以外の組み合わせを巻かれる場合（PEライン3号200m/3号300m）：付属ゲージを使用**

（3・4とも22～25ページ参照）

ご注意

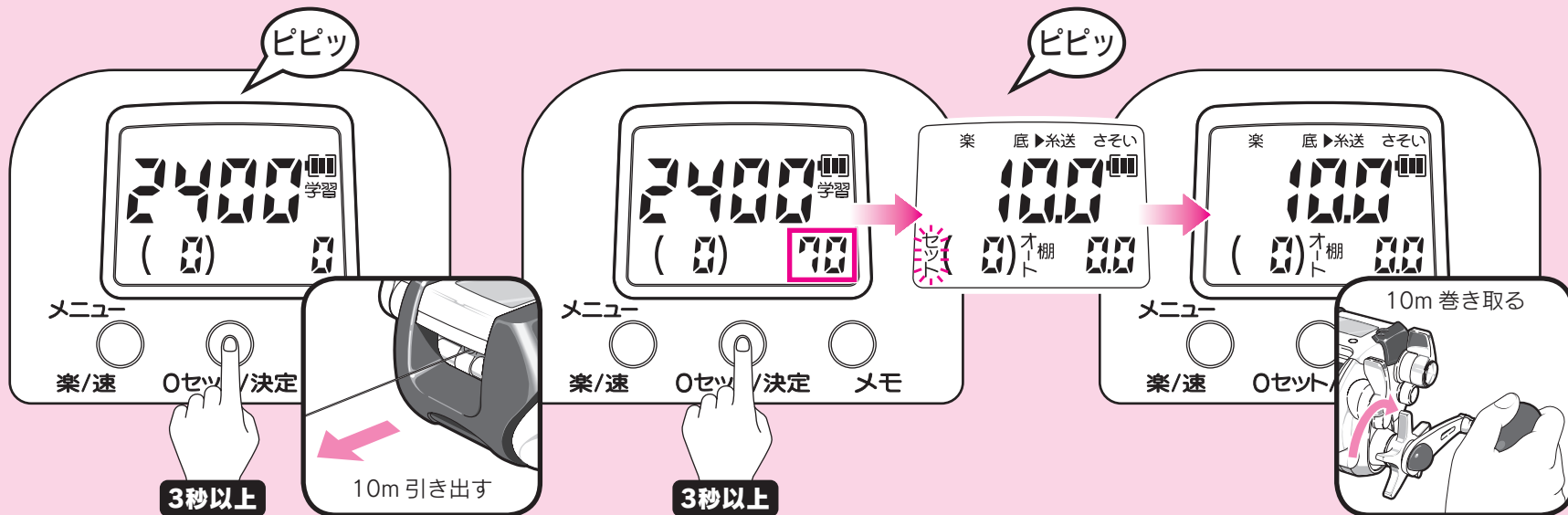
3号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールと本体枠のすき間に入り込んでしまう場合がありますのでご注意下さい。

1 PEライン（メーターごとのマーカーのある糸）を巻かれる場合 →【普通学習】を使用します。

ナイロン糸など（メーターのマーカーのない糸）を巻かれる場合は 20 ～ 21 ページをごらんください。下巻を行っての学習も可能です。（学習モード【下巻学習】・22 ～ 25 ページ参照）

1 カウント値が 6 m以下で操作します。
6.1m 以上の時は 0 セット（29 ～ 30 ページ参照）しておきます。
クラッチレバーを ON にしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
（標準モードの状態です。）

2 **決定ボタン、メモボタンを両方同時に 3 秒以上押すと学習モードに入ります。**
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定ボタンを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。
（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは 15 ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

3 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数が表示されます。
巻き上げのテンションは（ ）内の数字が 3 になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字 =kg ではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **糸を完全に巻き終えたら、決定ボタンを 3 秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。）

5 スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定ボタンを 3 秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が 2 秒間表示されます。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

7 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

2 ナイロンラインなどマーカーのない糸を巻かれる場合

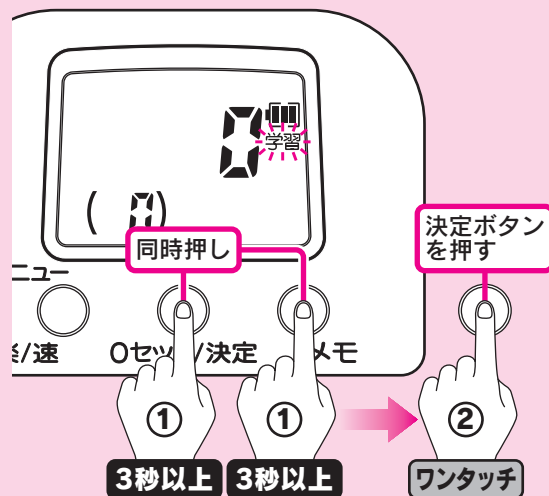
→【普通学習】を使用します。

スプールの回転数を示します。

同時押し

決定ボタンを押す

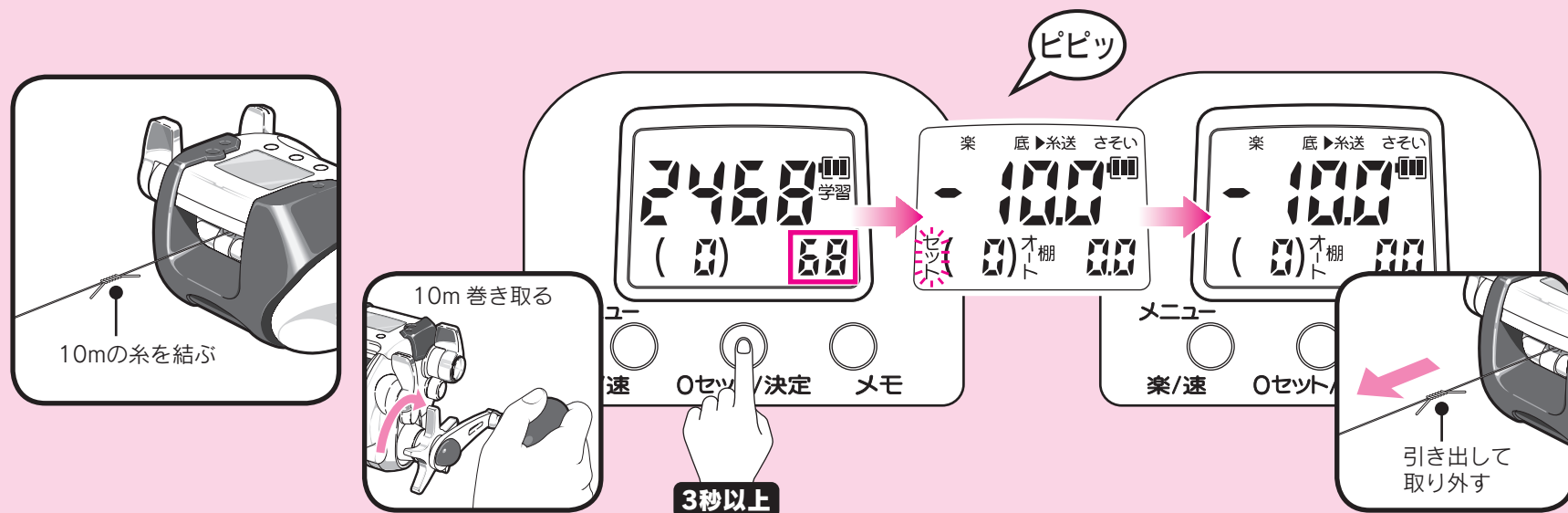
3秒以上 3秒以上 ワンタッチ

テクニカルレバーで巻き上げ

巻き上げのテンションはこの数字が3になるようにしてください。

1 カウント値が6 m以下で操作します。6.1m 以上の時は 0 セット（29 ～ 30 ページ参照）しておきます。
クラッチレバーを ON にしてください。そして、電源の接続を確認してください。決定ボタン、メモボタンを両方同時に 3 秒以上押すと学習モードに入ります。
「学習」（普通学習）が点滅します。
決定ボタンを押し、普通学習を決定します。
「学習」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは 15 ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 **テクニカルレバーで糸を巻いてください。**
スプールの回転数が表示されます。
巻き上げのテンションは（ ）内の数字が 3 になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字 =kg ではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

3 **糸を完全に巻き終えたら、決定ボタンを 3 秒以上押してください。**
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

4 **巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。**

5 **結びつけた糸を手巻きで巻き取ります。**

スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）

学習を終了するため、決定ボタンを3秒以上押してください。

「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が2秒間表示されます。

※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

6 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**

（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。）

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

7 **結びつけた糸を引き出して、取りはずしてください。**

ご注意：ナイロンラインは、巻き上げ繰り返しのテンション変化にて誤差が3%以上生じる可能性があります。

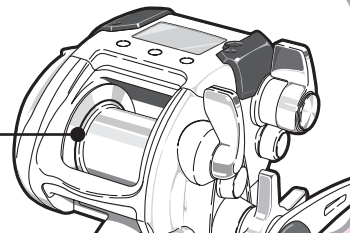
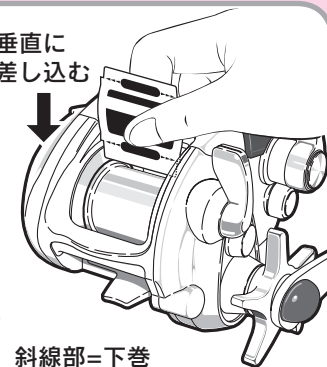
SLS

3 PEライン4号200mを巻かれる場合 → スプールの下巻目安ラインと【下巻学習】を使用します。

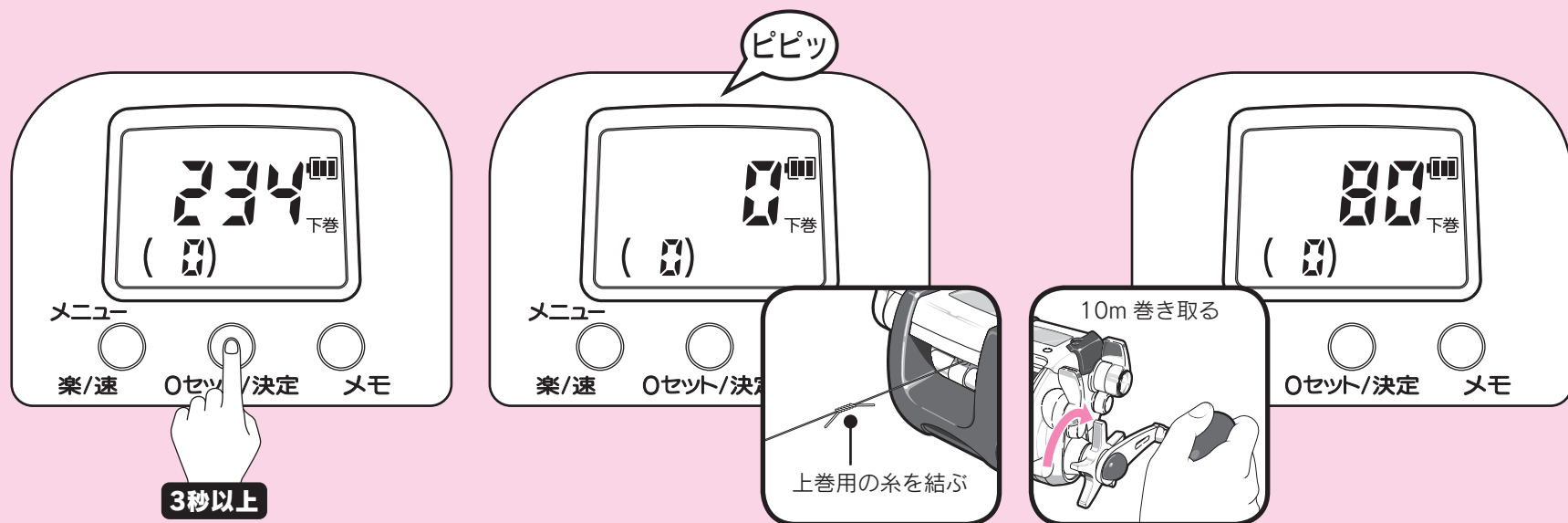
4 それ以外の組み合わせ（PEライン3号200m/3号300m）を巻かれる場合

→ 付属ゲージと【下巻学習】を使用します。

1 カウント値が6m以下で操作します。6.1m以上の時は0セット（29～30ページ参照）しておきます。**決定ボタン、メモボタンを両方同時に3秒以上押して学習モードに入り、メニューボタンを1回押してください。**「下巻」（下巻学習）が点滅し、表示は図のようになります。**決定ボタンを押し、下巻学習を決定します。**「下巻」が点灯に変わります。（学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは15ページ「学習方法の選択」をご参照ください。）

2 **右の要領でそれぞれ下巻を行います。ハンドルかテクニカルレバーで糸を巻いてください。巻き上げのテンションは（ ）内の数字が3になるようにしてください。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。**

ゲージの使用方法

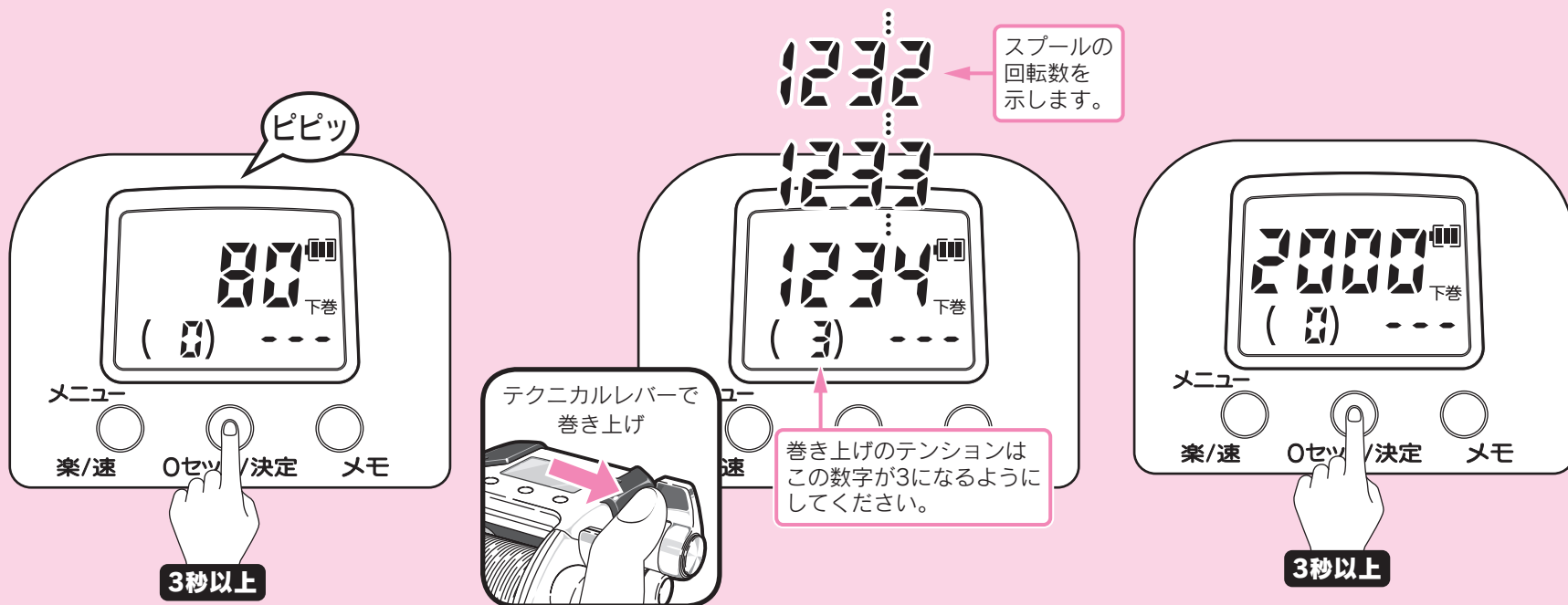
上図のように付属のゲージをスプールに垂直に差込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。スプールとゲージの間にできたすき間（図の斜線部）が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

3 **下巻を完全に終えたら、決定ボタンを 3 秒以上押してください。**

4 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻糸に上巻用の糸を結びます。

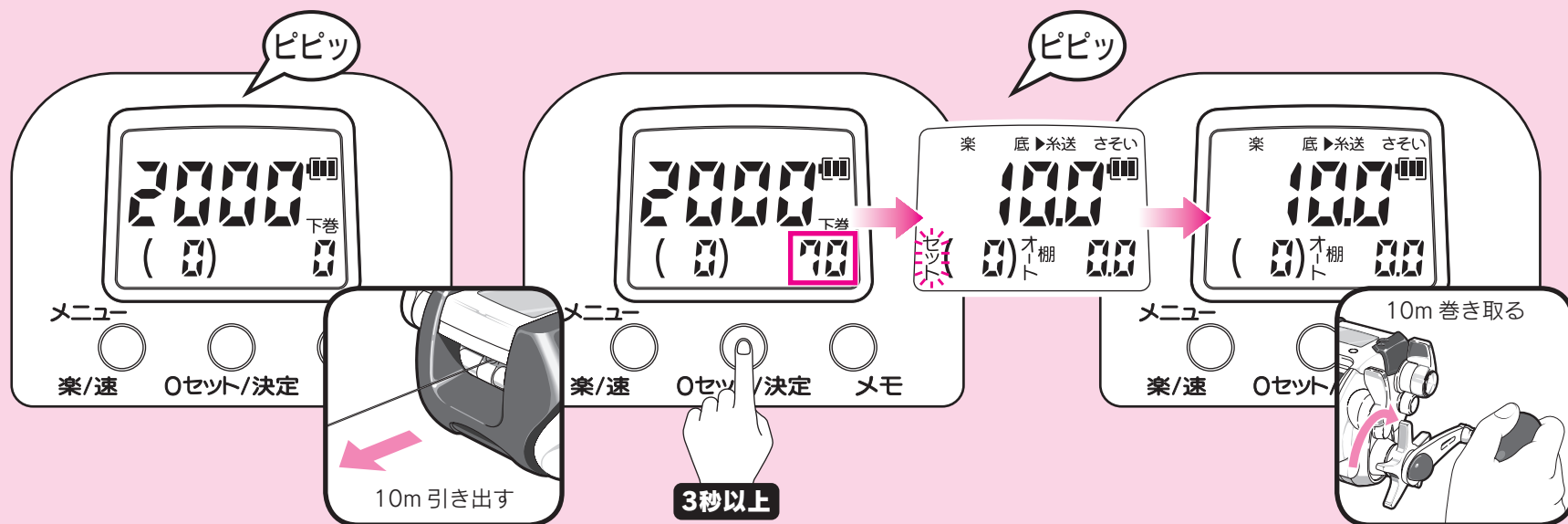
5 **上巻糸を正確に10ｍ分手巻きで巻き取ります。**
スプールの回転数が表示されます。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

6 決定ボタンを 3 秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

7 残りの上巻糸を巻き上げます。
テクニカルレバーで糸を巻いてください。
巻き上げのテンションは（ ）内の数字が 3 になるようにしてください。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

8 糸を完全に巻き終えたら学習を終了するため、決定ボタンを 3 秒以上押してください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

9 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。（糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。）

10 スプールの回転数が画面右下に表示されます。（□部分）
学習を終了するため、決定ボタンを 3 秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、「セット」が 2 秒間表示されます。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。糸を取り出してもう一度 **1** からやり直してください。

11 **表示が標準モードに戻り、学習は完了です。**
（カウンターの数値と実際の糸の出た長さとでは最大で± 3%の誤差が生じる場合があります。）
※誤差とは、学習後 1 投目の誤差です。

12 **引き出した10m分の糸を巻き取ってください。**

糸巻学習後の手順（早く、有効に使いこなすために…）

かんたん手順

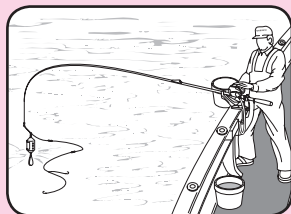
これさえ知っていれば
とにかく使えます。

べんり手順

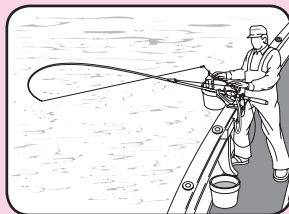
簡単で、とっても
便利です。

もっともっと べんり手順

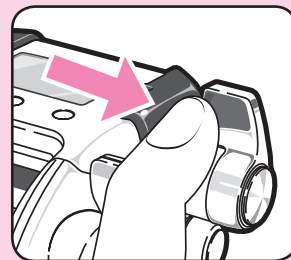
知れば知るほどあなたの
釣りの世界が広がります。

0セット

ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0m になるよう設定。
狙った水深に正確にシカケを投入できます。

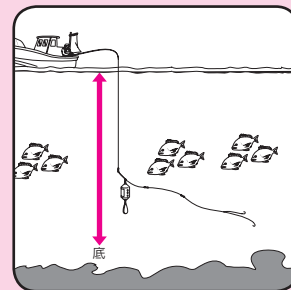
詳しくはP29～30へ!!

船べり自動停止

竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しに差がつきます。

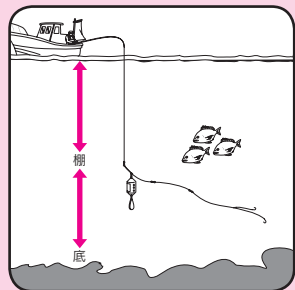
詳しくはP32～33へ!!

テクニカルレバー

エサの付けかえをする時、あるいはアタリがあればテクニカルレバーでらくらく巻き上げ。

詳しくはP13へ!!

棚アラーム

水深をメモリーすれば、次回そこにシカケがくるとアラームが鳴り、底や棚を知らせます。

詳しくはP34～35へ!!

上から・底から モード切替え

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じたカウンター表示「上からモード」「底からモード」が切り替え可能。棚の水深が一目でわかります。

詳しくはP36～38へ!!

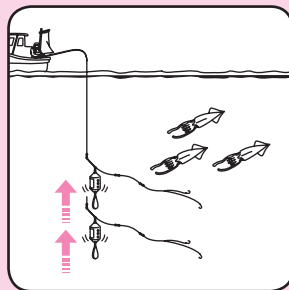
楽楽・速度一定 モード切替え

スプール回転一定の
速度一定モード

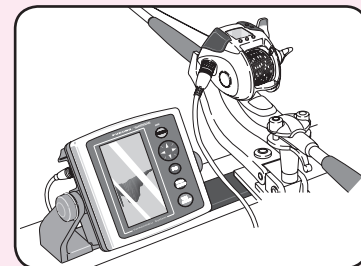
ラインテンション一定の
楽楽モード

一定のテンションを保って引っ張り合いやシカケのゆるみを防ぐ「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

詳しくはP39～40へ!!

さそい

名人の「3段シャクリ」をリールが再現してくれます。

詳しくはP41～42へ!!

探見丸システム

船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。
「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスターが探見丸でさらに便利に！

詳しくはP43～44へ!!

シカケを速く落すテクニック。

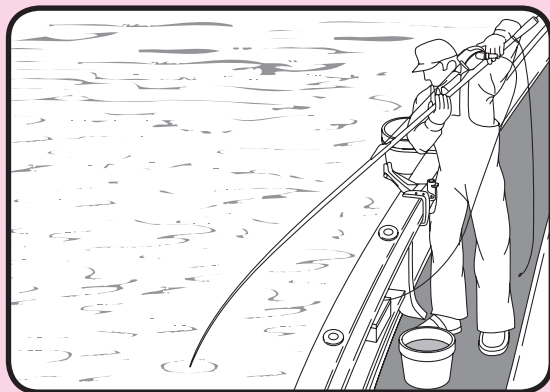
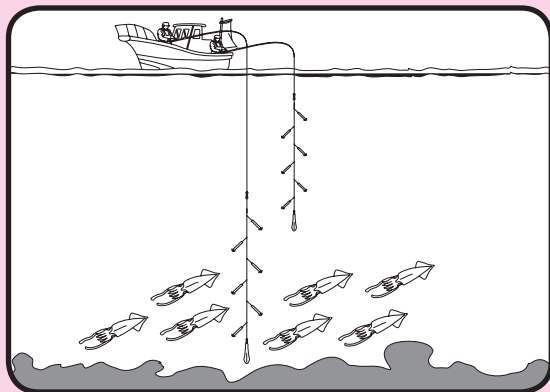
特にイカを狙うときに有効なテクニックです。

●一般的にはスプールコントロールツマミを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。

●しかし、より速くシカケを落とすためにはスプールコントロールツマミを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

この他にも次のようなテクニックがあります。

●この電動丸には、自動糸送りの機能が付いています。シカケを投入して水深が船べり停止位置＋5m以上になったら、自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくします。クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。
※自動糸送りが作動中はモーターが回転していますのでそのままクラッチをONにすると若干糸を巻き込みますが異常ではありません。

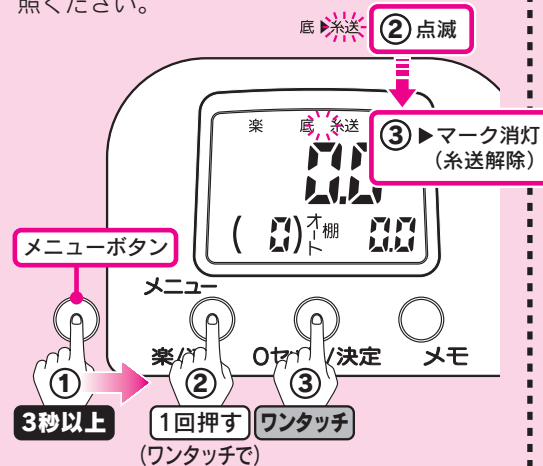
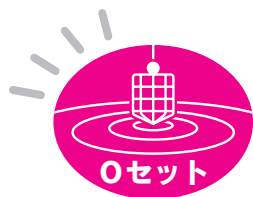
●竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。（右図）

自動糸送り機能を解除する方法

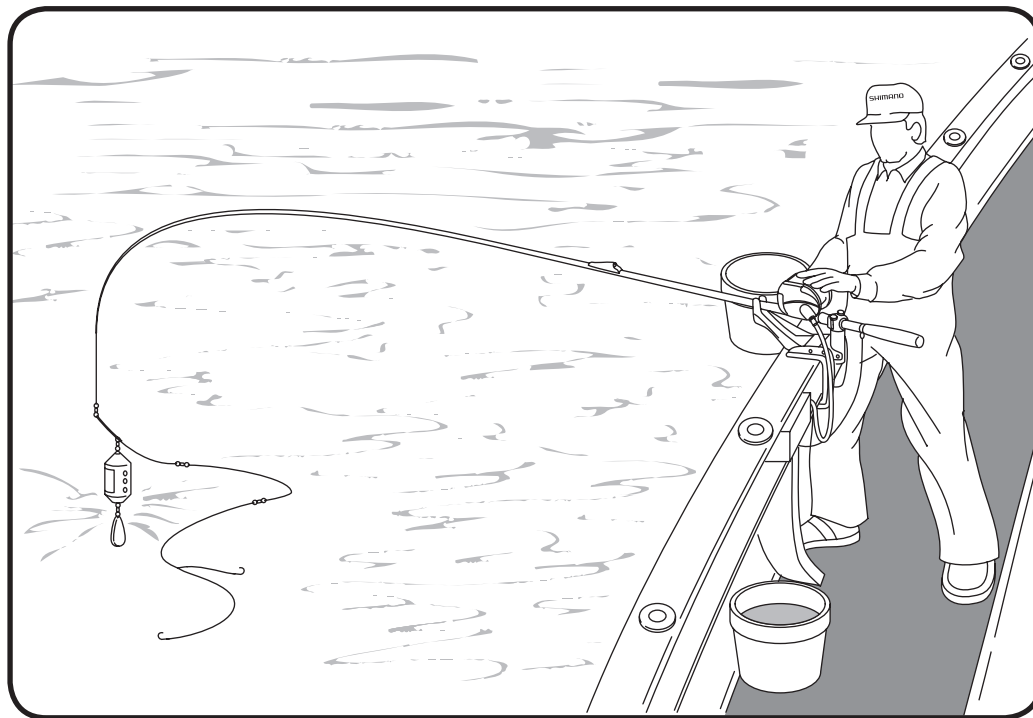
電源を入れたときは自動糸送り機能が作動するようになっています。ガイドの抵抗、バックラッシュなどでこれを解除したいときは下記の操作をしてください。

1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、

2. 続けてメニューボタンを（3秒未満押しで）1回押してください。「糸送」が点滅になります。

3. 決定ボタンを押すと▶マークが消灯し、自動糸送りが解除されます。
もう一度作動させたいときは、同様の操作を行ってください。

メニューボタンの操作について、詳しくは12ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。

0（ゼロ）セットの設定 （釣りを始める前に必ず行なってください。）

正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0 セット」を設定します。
「0 セット」とは、シカケが水面にある時を 0m として設定することです。
「0 セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。
※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

シカケが水面にある時を 0m として設定します。

次ページにつづく

0 セットをしてみましょう。

1 シカケを水面に合わせ、0セットボタンを３秒以上押して下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。

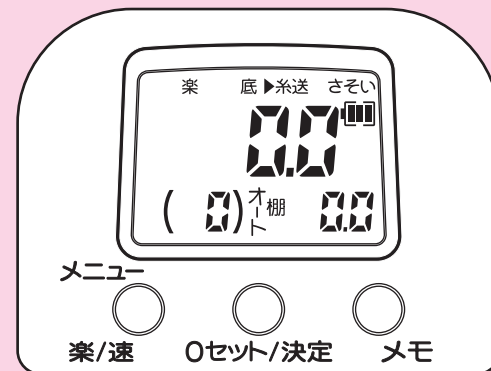
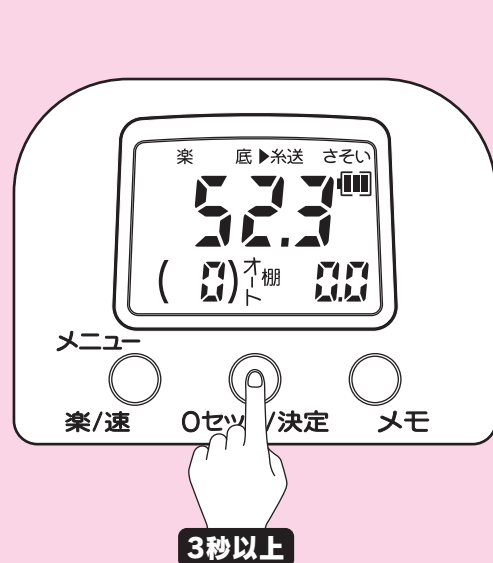
3 これで0セットは完了です。

※探見丸・電動丸の「さそい機能」が ON の場合、0 セットできない場合があります。必ず「さそい」を OFF にしてから行ってください。

ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れの補正

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0 セットボタンを 3 秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。

3 これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

ご注意！

高切れの補正を行う場合、「さそい機能」がOFFになっていることを必ず確認してください。ONのままですとさそい動作がスタートされ、糸を巻き込んだり、思わぬケガにつながります。

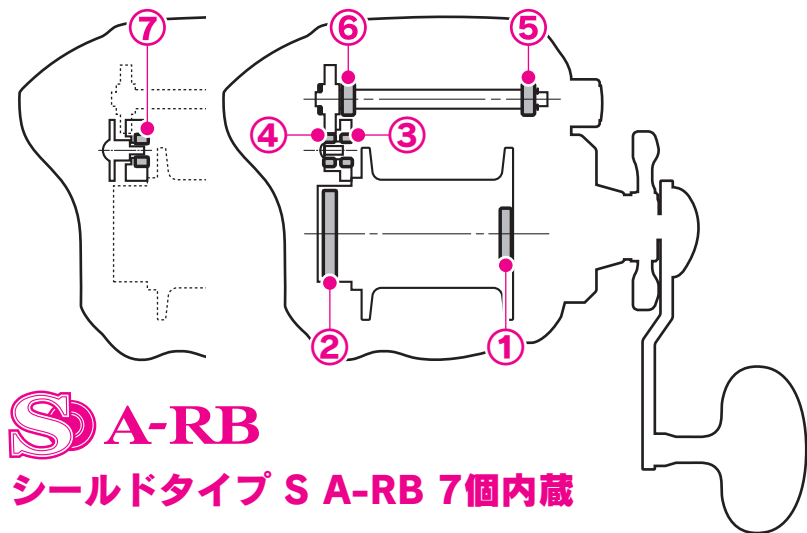
ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での高切れ補正は、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

S A-RBについて

シールドタイプ S A-RBで さらなるスプールフリーを実現！

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。それによってヤリイカでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、完全フカセでよく言われるレベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

シールドタイプ S A-RB 7個内蔵

船べり自動停止について

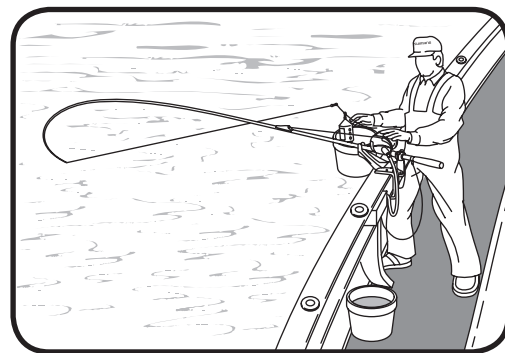
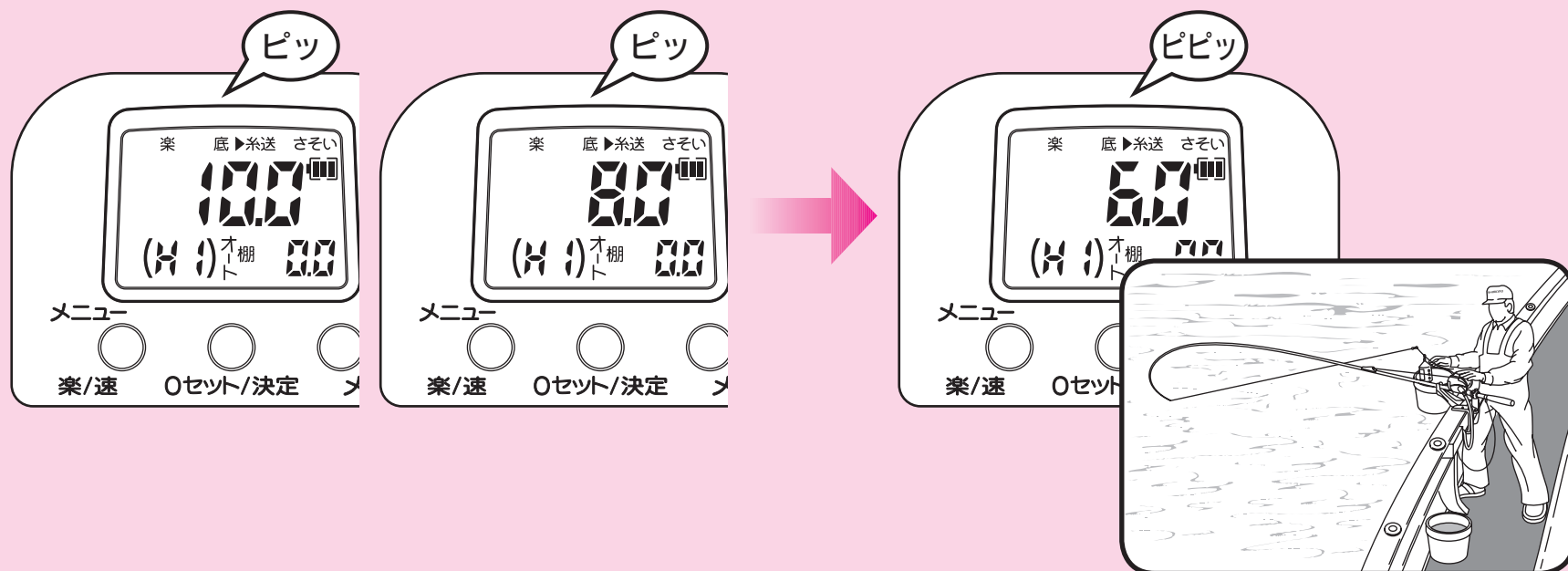
電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。

（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。）

●ワンポイントアドバイス

短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズレてしまいます。

船べり自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。

1 セットされている船べり自動停止位置の 4m 手前から、2m ごとにアラームでお知らせします。
図はテクニカルレバーの HI で巻き上げた場合の表示です。

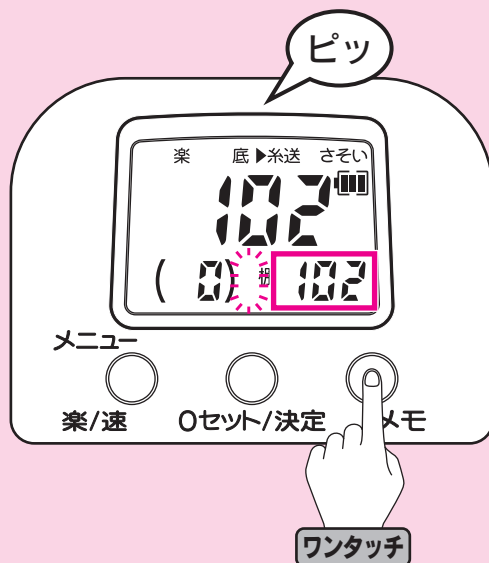
2 船べり自動停止位置（この場合は 6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船べり停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法

メモ水深は自動的にセットされます。手動でメモリーすることも可能です。

オート

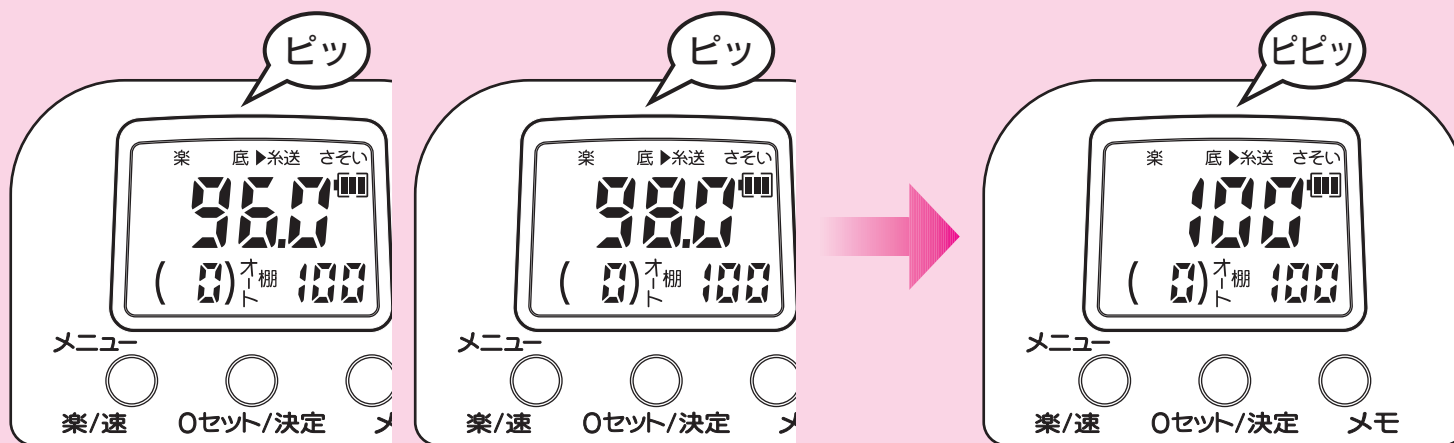
シカケが6秒以上停止していた水深（6.1m以上の場合）は、棚として自動的にメモリーされ、船べり停止時に画面右下に表示します。（□部分）
複数あれば一番最後の水深、6秒未満停止の場合は最も深かった水深をメモリーします。
図は上からモードの場合の表示です。
カウンター内の数値は例です。

手動

シカケをメモリーしたい水深（6.1m以上）に合わせ、メモボタンを押します。
「オート」の表示が消え、上図ですと102mの水深がメモリーされます。（□部分）
底からモードの場合、同時に現在の水深が0.0mになります。
このセットは何回でも入れ換えが可能です。

3秒以上

オートへの切り替え方法

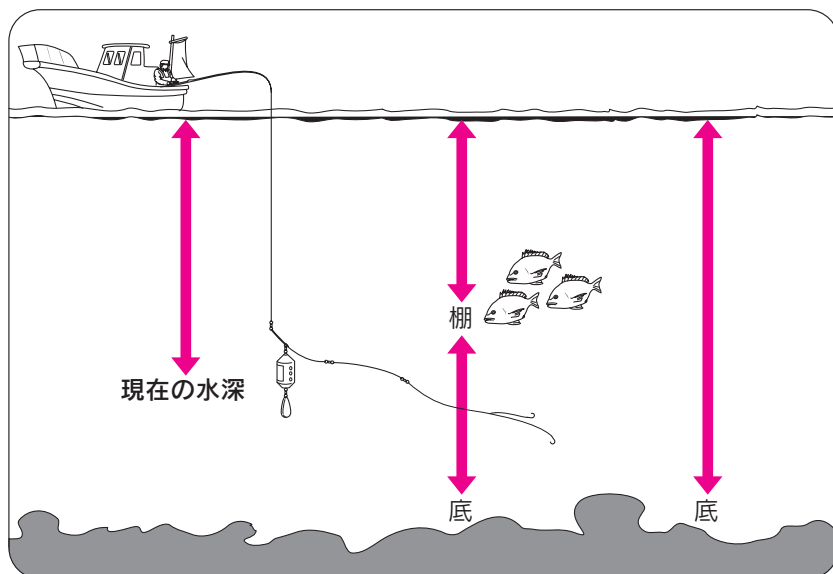
船べり停止時にメモボタンを3秒以上押してください。
「オート」が表示され、オート機能が復活します。

メモリーした水深の 4m 手前から「棚アラーム」でお知らせします。

1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の 4m 手前から、2m ごとにアラームでお知らせします。

2 メモ水深（この場合は 100m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。
1 回の上げ下ろしにつきアラームは 1 回のみです。
いったん 6.0m 未満まで巻き上げたり、0 セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

２通りの棚の取り方・上からモードと底からモード

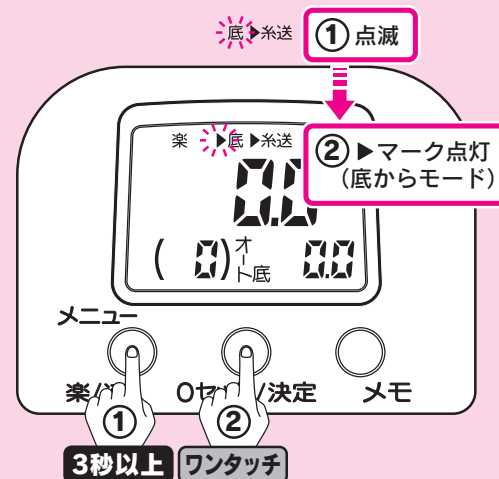
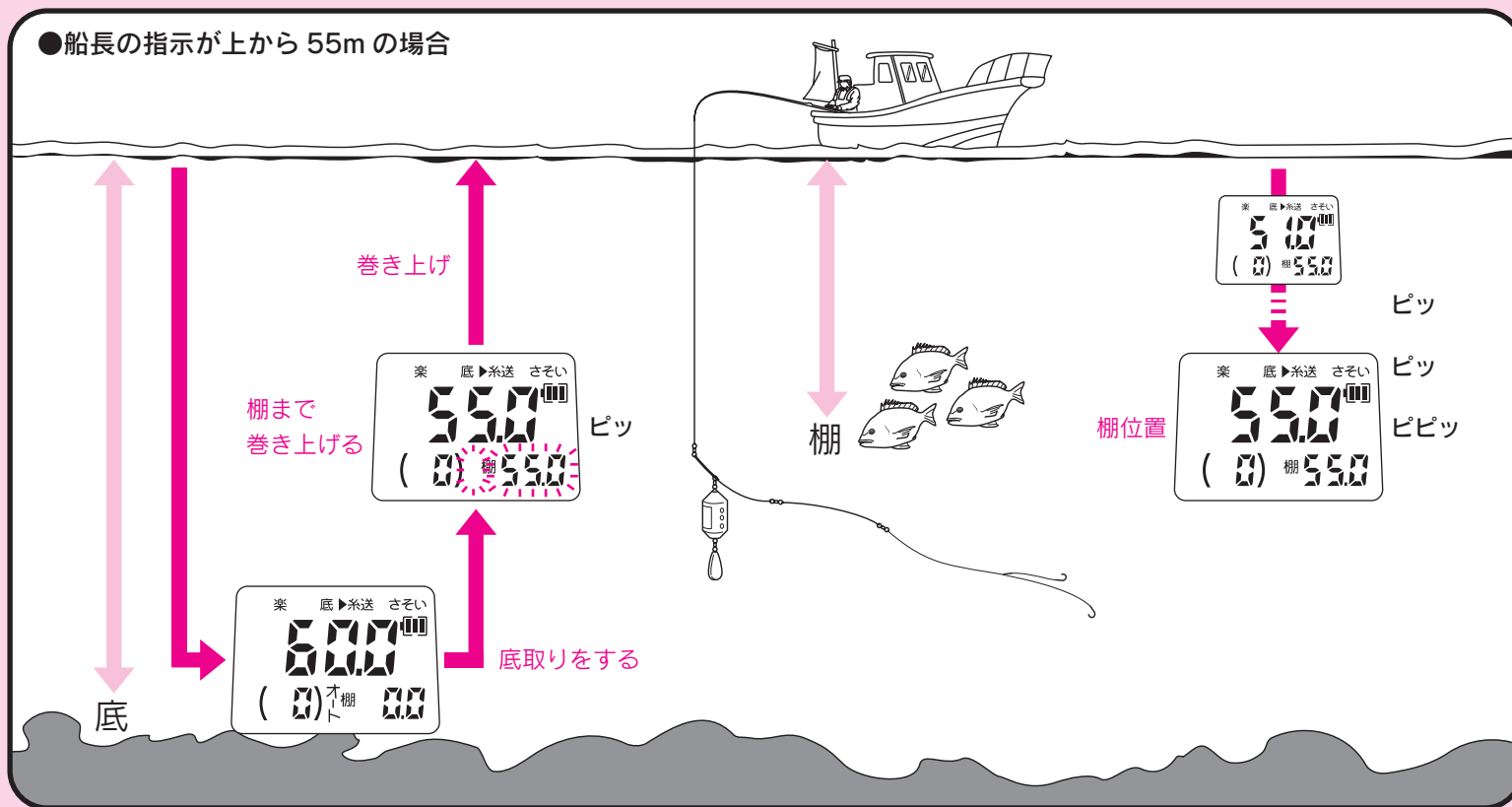
棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。
最近は高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。
通常、船長がこの棚を教えてくれます。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。
この電動丸は、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と底から棚をとるのに便利な「底からモード」の２つのモードを備えています。
その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

モードを切り替えるには…

電源を入れたときは上からモードになっています。モードを変更したいときは下記の操作を行ってください。

1. モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを３秒以上押します。「底」が点滅になります。

2. 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、底からモードになります。
上からモードに戻したいときは、同様の操作を行ってください。

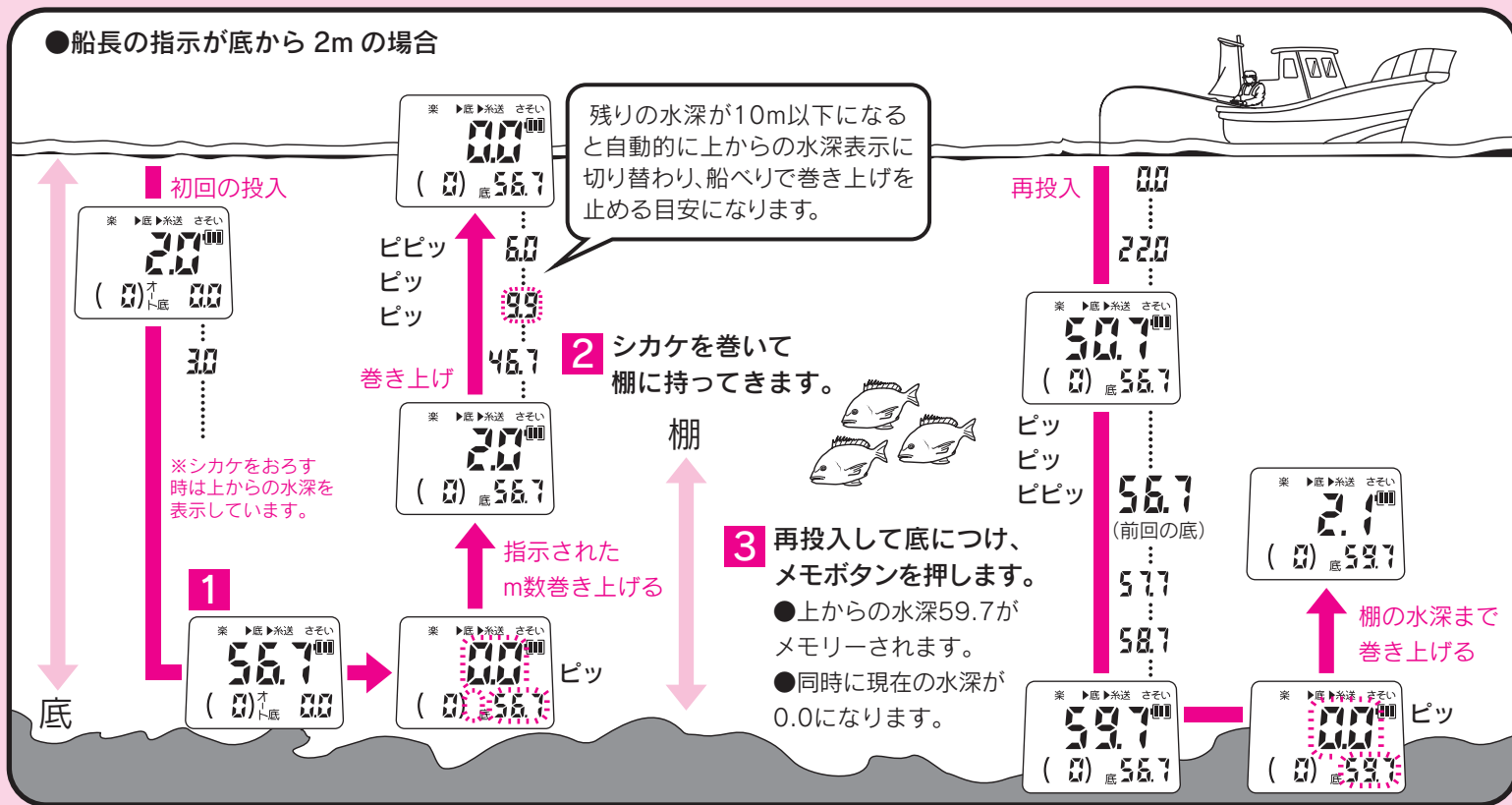
メニューボタンの操作について、詳しくは12ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。

上からモードの実釣編

1 シカケをいったん底につけます。

2 シカケを巻いて棚に持ってきます。
メモボタンを押して棚をメモリーします。
以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。

3 再度投入した際「棚アラーム」によって、シカケがメモリーした水深にきたことを知らせてくれます。

底からモードの実釣編

1 シカケをいったん底につけ、メモボタンを押します。

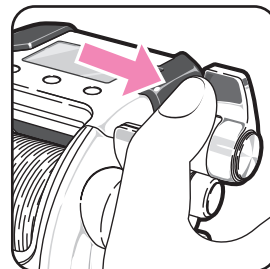
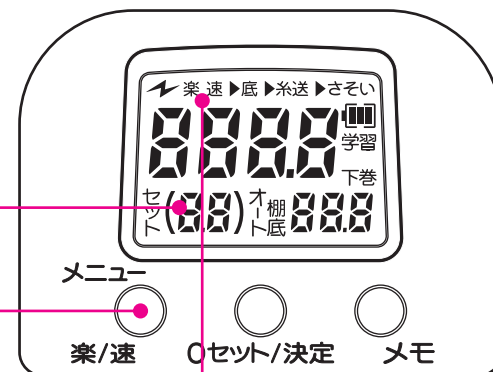
●上からの水深がメモリーされます。
●同時に現在の水深が 0.0 になります。リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深を表すようになります。

解説！

船長の指示が「底から何 m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示された m 数だけシカケを上げます。（通常この時にコマセを振ります。）

1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

●電源を入れた際には楽楽モードで起動します。
メニュー・楽/速ボタンを押すごとに、速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。（右図）
巻き上げ中の操作も可能です。
現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。
楽楽モード：「楽」点灯（バックライト：緑）
速度一定モード：「速」点灯（バックライト：オレンジ）

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物が大きくなろうが小さくなろうが、つまりリールにかかる負荷が大きくても小さくても、モーターが調整して設定された速度※を一定に保って巻き上げます。
（※速度→電動リールのスプール回転速度）

次ページにつづく

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、つねに一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったりしたときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。

これなら楽だし、手巻き感覚で安心です！

※工場出荷の初期設定は「楽楽モード」となっております。

さらにこんなメリットも…

●活きエサを除くすべての釣りをカバー。
テンションの軽いシカケ回収の際には、ほぼ最高速で巻き上げてくるため、電動の速度調整がいらず非常に簡単便利。

●テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。

●電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

●負荷の大きいスルメの直結などでさそう時には「速度一定」で行い、「取り込み」の際には「楽楽モード」で行うと、より電動リールのスペックを発揮することができます。

楽楽モードの設定方法

テクニカルレバー

●テクニカルレバーで設定します。（前ページ図参照）
巻き上げ設定は全部で 30 段階設定できるようになっています。
テクニカルレバーの設定値はカウンターに表示されます。

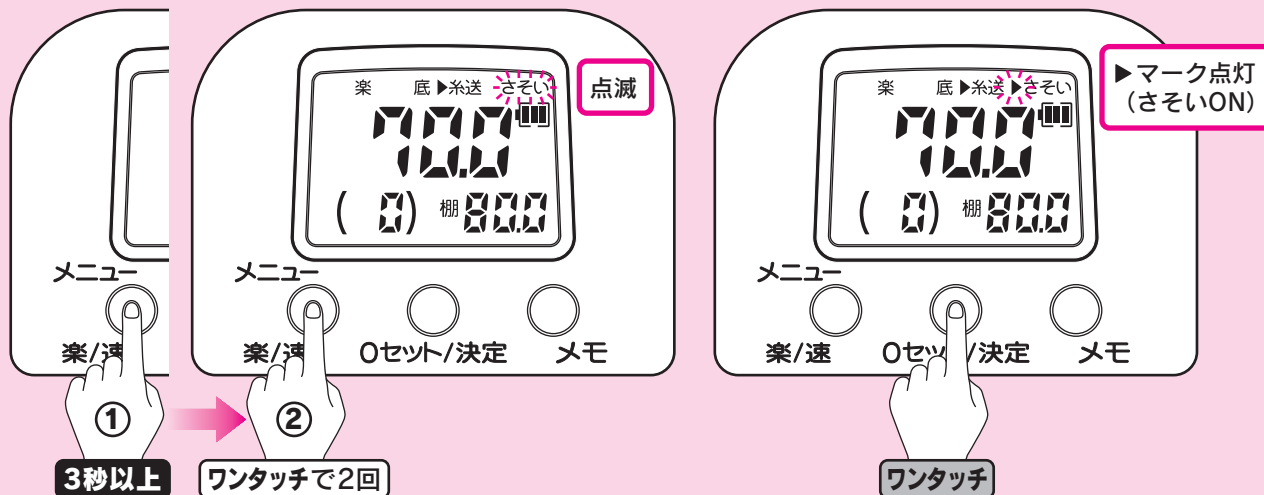
●設定値 1 ～ 30 の中で 1 ～ 4 におきましては速度一定モードが入っておりますので「スローなさそいをしたい！」という場合は 1 ～ 4 を使われると非常に便利です。

●また、5 ～ 30 は楽楽モードになっておりますので、魚とのやりとりには最適です。

さそい「3段シャクリ」の再現

名人の「3段シャクリ」をリールが再現してくれます。

一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。

探見丸との通信中は、電動リールだけでのこの操作はできなくなりますのでご注意ください。

1 **モータが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、続けてメニューボタンを(3秒未満押しで)2回押してください。**

「さそい」が点滅になります。

注意:液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ設定・数値を示すわけではありません。

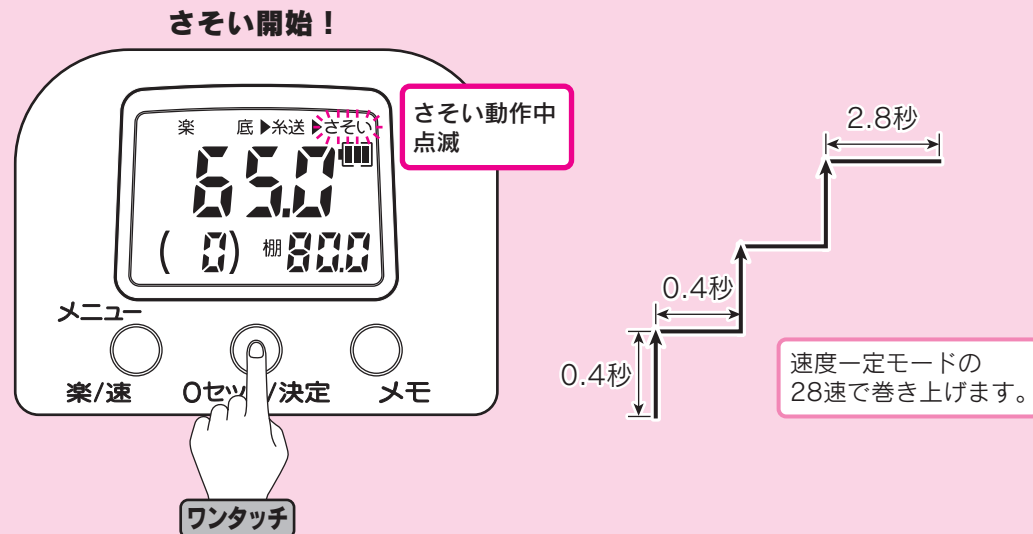
2 **決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、さそいがONになります。**

さそいをOFFしたいときは、同様の操作を行ってください。(メニューボタンの詳しい操作方法は、12ページをご覧ください。)

ご注意!

高切れの補正、0セットを行う場合、「さそい機能」がOFFになっていることを必ず確認してください。ONのままですとさそい動作がスタートされ、糸を巻き込んだり、思わぬケガにつながります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合に同じ数値を示すわけではありません。

3 再度決定ボタンを押すと「３段シャクリ」のさそいパターンをくり返し行います。さそい動作の途中停止、再スタートも決定ボタンを押します。

さそい動作中は「さそい」表示が点滅します。

ご注意!! 3秒以上押さないでください!!
リールの決定ボタンを３秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻学習を行っていただくか、そのままハンドルで道糸を巻き、海面までシカケを持ってきてから０セットを再度押してください。(上記の水深65ｍで行った場合、-65ｍで再度０セットとなります。)

探見丸システム接続時の機能一覧

この電動丸を探見丸に接続された場合、探見丸で下記の機能が使用可能になります。

探見丸単体の機能④⑥⑦⑯⑰を含む、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧下さい。
対応電動丸の機種によって使用可能になる機能は異なります。
画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

探見丸メニュー画面 1

06:23

No.	機能	設定
①	楽速切替	楽楽
②	さそい	OFF
③	さそい幅	連続
④	底拡大	OFF
⑤	位置補正	OFF
⑥	ボトムライン	OFF
⑦	背景色	白色
⑧	シカケ軌跡	OFF

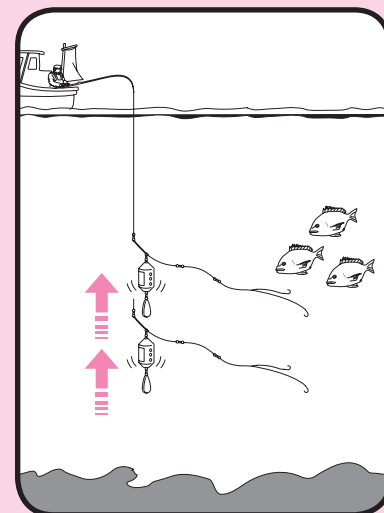
探見丸メニュー画面 2

06:23

No.	機能	設定
⑨	棚停止	
⑩	オートさそい	
⑪	糸送り	ON
⑫	上底切替	上
⑬	仕掛回収	ON
⑭	巻上回数	0
⑮	巻上時間	0分
⑯	時計	06:23
⑰	デモ画面	OFF

① [楽速切替]…
電動丸の楽楽モード・速度一定モードの切り替えが探見丸から操作可能です。

② [さそい]…
電動丸にさそい動作を再現させることができます。
さそいパターンを選択、または [学習] でオリジナルのさそいパターンを入力できます。

③ [さそい幅]…
さそい動作を行う幅の指定ができます。

※イラストはイメージです。

次ページにつづく

⑤[位置補正]…

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。（右図）探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

※電動リールから位置補正する場合は「さそい機能」をOFFにしてください。「さそい」がONの状態だと、位置補正を決定させる際にさそい動作が開始する場合があります。

⑧[シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。

魚探の反応と仕掛けの
軌跡が同じ位置で **アタリ!!**

40
60

⑪[糸送り]…

電動丸の自動糸送り機能の [ON]・[OFF] が探見丸から操作可能です。

⑫[上底切替]…

電動丸水深表示の **[上から]**（水面から）・**[底から]** を探見丸から設定できます。

⑬[仕掛回収]…

[ON] にするとレバー回収時に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。

⑭[巻上回数]…

[ON] にすると船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数がメニュー画面の巻上回数欄に表記されます。

⑮[巻上時間]…

[ON] にするとモーターが作動していた時間がメニュー画面の巻上時間欄に表記されます。

お取り扱い上の注意

電動丸は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

※お手入れの際には必ず電源コードを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかり締め込んでください。

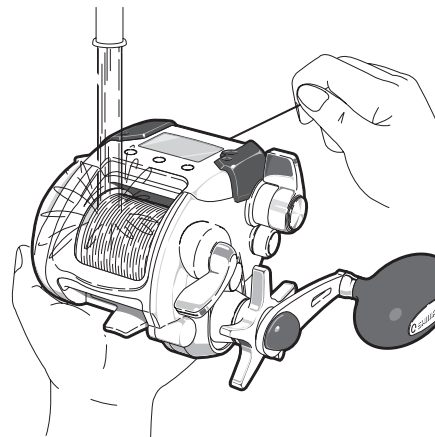
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。

3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を２～3m 出します（図参照）これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。(YARIIKA SP はベアリングが多数入っております。潮を洗い流すためにも、1 分以上しっかりと水道水での洗浄をお願いいたします。)

4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※電源コードのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

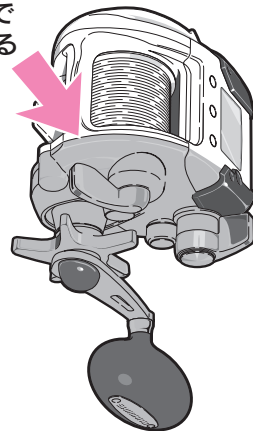
※ベアリングの塩カミについて

S A-RB（シールド耐塩水ベアリング）はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。その場合、S A-RB を取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、S A-RB ごと交換しなければ完全には解消出来ません。

※保管の際は必ずリールからコードを外して保管してください。

2 リールのお手入れ方法（スプール回転性能に低下が見受けられた場合）

●通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合（リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合）

※電源コードは必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて（右図参照・リール全体を浸水させないでください。）スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能が UP します。

2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
（リール内部に溜まった水を完全に排水させます。）

3 ご使用上の注意

●電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けますと、ドラグ部分のオイル焼け→ドラグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。

●根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。

●リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。

●リールは落としたり衝撃を与えないよう、ていねいに扱ってください。

●船の竿立てに収められる時は、リール後部及び電源コードに衝撃を与えないよう、また、コードを折り曲げないようご注意下さい。特にコードをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。

●偏光グラスの種類によってカウンターの液晶画面が見にくくなる場合があります。

●高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。

この電動丸はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。ご使用になる際は弊社、**電力丸**をご使用になるようお勧めいたします。 弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A（BT-021B）をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合が御座います。（その場合、電動丸の液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

4 お手入れの方法

●**定期メンテナンス－弊社サービスへご依頼下さい。**
リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、最寄りの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に 1 度はお預けいただくことをおすすめいたします。

●保管の際は必ずリールからコードを外して保管してください。

●リールを使用にならない時は防水キャップをしてください。

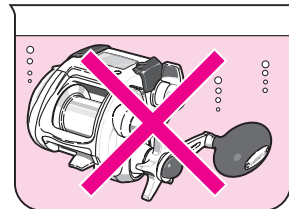
●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。

●ドラグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラグ力が低下することがあります。

●高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

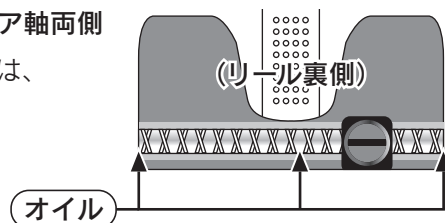
●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。
（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）

●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用オイル、グリスをご使用ください。

《噴霧箇所は次ページの〔1〕〔2〕をご覧下さい。》

〔1〕クロスギア軸とクロスギア軸両側

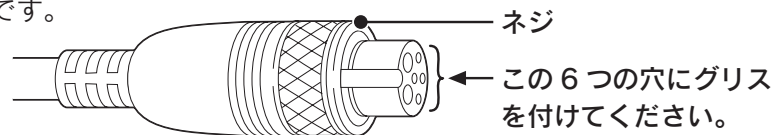
付属のオイルスプレー または、

シマノ純正リールオイルスプレー SP-013A ※

を噴霧してください。

YARIIKA SP はベアリングが多数入っております。クロスギア軸両側にもベアリングが入っていますので、水道水で洗浄された後はしっかりとオイルを噴霧してください。

〔2〕電源コードの端子の 6 つの穴

シマノ純正リールグリススプレー SP-023A ※ を噴霧してください。

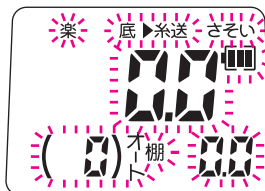
リール本体側の電源コードの端子にも塗布していただくとより効果的です。

※下記のグリスとオイルの 2 本セットもございます。

シマノ純正リールメンテスプレー（セット）SP-003H

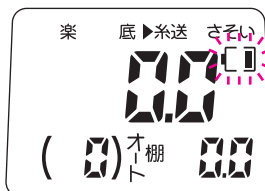
5 セーフティ機能

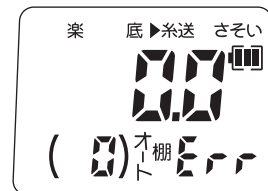
●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため 1 秒間隔でモーターが ON/OFF となりますが、異常ではありません。その状態を続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、右図のように全表示が点滅します。

作動した際は、モーター保護のためモーターを ON・OFF せずに 5 分以上休ませてください。（この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。）点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。

●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が 10.5V（リチウムイオンバッテリーは 13.5V）以下になった場合、またはコード・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字が点滅します。

絵文字が点滅しましたら、コード・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。

●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」ページを参照していただき、修理に出してください。

※下記の Err 表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

●電圧が高すぎる場合

DC28V以上の電圧がかかると上図のように表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかお確かめください。

●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

6 仕様

最大巻上力	最大ドラグ力	最大巻上速度	実用巻上速度			実用巻上持久力
			1kg（負荷）	2kg（負荷）	3kg（負荷）	
26kg / 260N	7.0kg / 68.6N	190m/分	153m/分	139m/分	121m/分	4.2kg / 41.2N

※参考値

シマノの船リールで表示している最大ドラグ力は、人間が片手で締め込める力を25kg/cmとし、そのときのドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば3000番のリールなら6号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。
その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は12.5V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

長時間耐久維持できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

品番	商品コード 製品コード	ギア比	自重 (g)	糸巻量(号-m) PE(新素材糸)	最大巻上長 (cm/ハンドル1回転)	電動巻上速度 (m/分)	スプール (径mm/幅mm)	ベアリング数 (ボール/ローラー)
電動丸1000 YARIIKA SP	02420 5RG261000	3.9:1	570	3-400 4-300 5-200	60	最高 190m/分	49/39	7 S A-RB + 2※ / 1

※通常ベアリング2個はモーター内部に内蔵（モーター内部は防水構造となっていますので、通常のベアリングを採用しています。）

●標準付属品　電源コード１本・取扱説明書・分解図・糸通しピン・保証書・下巻きゲージ（共通スプールの機種、04電動丸1000H・07電動丸1000SP・08電動丸1000PLAYSに付属のゲージをご使用されてもOKです。）・オイルスプレー

●電源（直流）　ＤＣ１２Ｖ（リチウムイオンバッテリー可）

●ご注意　３号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールと本体枠のすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

7 故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーと電源コードの（＋）（－）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 電源コードのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.14
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15～P.25
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15～P.25
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15～P.25
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることにより カウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 0m～1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.29～P.30 P.32
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P.14 P.13

《次ページに続く》

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールや電源コードのコネクター部分がサビていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.14
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて電動リールが正常に作動することをご確認くださいます様お願いいたします。
（1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。）
以上の確認を行なっても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

8 製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

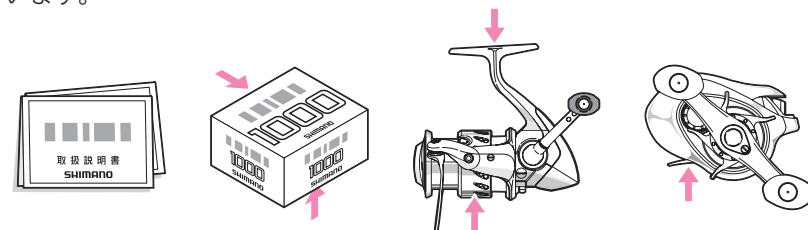
リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

- ●修理に出されるときには保証書と製品、電源コードをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
  その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。
  また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。
  修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。
- ●ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧いただき、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店もしくは最寄りの販売店にご注文ください。
  （内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお薦めします。）

  例／製品名：電動丸 1000 YARIIKA SP　　商品コード：02420
  　　製品コード：5RG261000　　部品番号：2　　部品名：ハンドル

- ●弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後 6 年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後 6 年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上５ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。

株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ　北海道営業所
〒001-0925 札幌市北区新川5条1-3-50　TEL.(011)716-3301

株式会社シマノ　仙台営業所
〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10 TEL.(022)232-4775

株式会社シマノ　埼玉営業所
〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ　東京営業所
〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17 TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ　静岡営業所
〒410-0807 静岡県沼津市錦町674　TEL.(055)962-3983

株式会社シマノ　名古屋営業所
〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ　大阪営業所
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3-77 TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ　中国営業所
〒700-0941 岡山市南区青江6-6-18　TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ　四国営業所
〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1 TEL.(0875)23-2220

株式会社シマノ　九州営業所
〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6 TEL.(0942)83-1515

シマノセールス株式会社　釣具サービス課
〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町1-5-15 TEL.(072)243-2851

株式会社シマノ釣具事業部　本　社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-861130（ハローイイサオ）フリーダイヤルをご利用できない方は **072-243-8538（有料）** をご利用下さい。**受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00（土･日･祝日除く）**

■シマノホームページ　アドレスは **http://www.shimano.com** です。
新製品情報・気象情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。
また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■シマノi-mode情報　アドレスは **http://fishing.shimano.co.jp/i/** です。

Printed in Japan　037t